

元総社蒼海遺跡群（148）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2
0
2
4
・
3

2024.3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（148）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

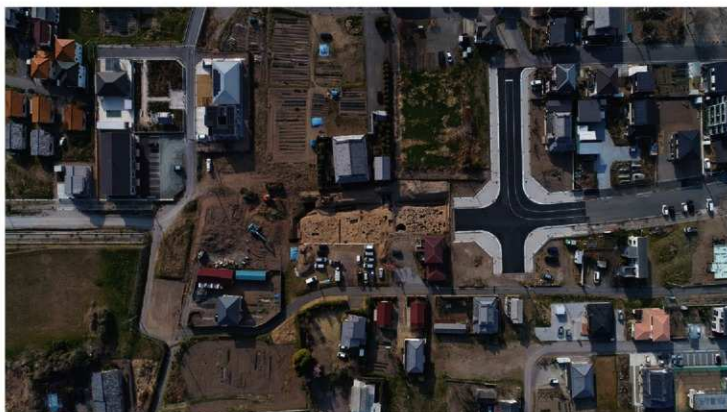
2024.3

前橋市教育委員会



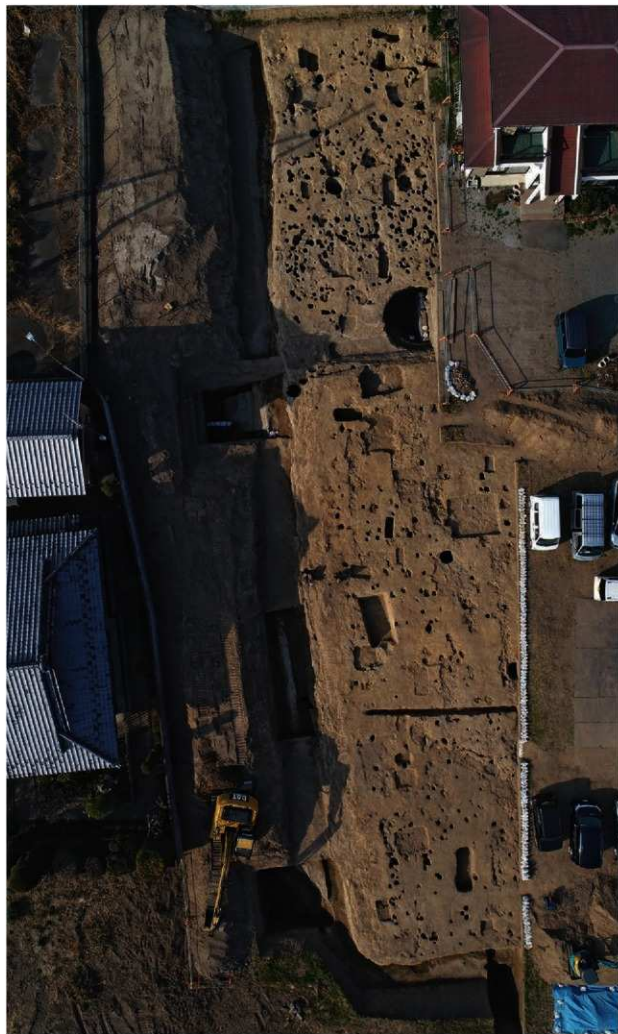
北西上空から見た元総社蒼海遺跡群 (148) 調査区

調査区上（南方）には蒼海城本丸、左上（南東）には上野総社である総社神社の社殿。



上空から見た元総社蒼海遺跡群 (148) 調査区 右が北

区画整理地内の幹線道路建設に先立つ調査・事業も終盤に近づき、調査中も南側の民家は解体、屋敷林は伐採されて、調査区からの景色は目まぐるしく変貌した。



上空から見た元総社基海遺跡群 (148) 調査区 右が北

遺構の大半が中世で、大小の堀による区画の中から竝穴は遺構・地下式坑・井戸と共に、孤立柱遺物を構成するピットが夥しい数確認された。

確認面は基盤の総社砂層で、古代以前の遺構はほとんど遺っていないが、中世に大規模な造成が行われた結果と考えられる。



B-1～6（北が上） 黒B-1・白B-2・橙B-3・青B-4・赤B-5・緑B-6



B-1 付近 (北西から)



D-1・2 [B-1の溝持ち柱穴] 完掘 (西から)



D-1 [B-1柱穴] (南から)



D-2 柱穴部 (北から)



D-15 内柱穴 (西から)



P-310 [B-1柱穴] (北から)



P-5 [B-1に伴う地鎮] (北から)



D-5 内柱穴 (南西から)



D-5 内 斜行する深柱穴 (南から)



P-5 [B-1に伴う地鎮] 遺物詳細 (西から)



B-2~6 (西から)



B-7 付近 (西から)



T-1 [方形竪穴] 完掘 (東から)



T-2 [方形竪穴] 完掘 (南東から)



T-3 [方形竪穴] 完掘 (北から)



T-4 [地下式坑] T-5 [土坑] 完掘 (東から)



T-4 遺物出土状況 (西から)



T-4 出入口部 (北から)



T-6 [方形竪穴] 完掘 (北から)



T-7 [方形竪穴] 完掘 (東から)



D-3 完掘 (西から)



D-4 完掘 (北から)



D-5 完掘 (東から)



D-6 完掘 (北から)



D-7 完掘 (南から)



D-8 完掘 (西から)



D-9・17、1-3 完掘 (北から)



D-10 完掘 (西から)



D-11 遺物出土状況 (西から)



D-12 完掘 (北から)



D-13・14 完掘 (東から)



D-15 完掘 (西から)



D-16 完掘 (西から)



D-18・19 完掘 (東から)



D-20・21 完掘 (東から)



D-22 完掘 (北から)



D-23 完掘 (西から)



D-24 完掘 (東から)



D-25 完掘 (北から)



D-26 完掘 (北から)



D-27 完掘 (東から)



D-28 完掘 (西から)



D-29 完掘 (東から)



D-30 完掘 (西から)



D-31 完掘 (東から)



D-32 完掘 (北から)



D-33 完掘 (西から)



D-34 完掘 (西から)



D-35 完掘 (東から)



D-36 完掘 (北から)



D-36 遺物出土状況 (北から)



D-36 作業状況 (南から)



I-1 上層遺物出土状況 (西から)



I-1 上層遺物詳細 ① (西から)



I-1 上層遺物詳細 ② (北西から)



I-1 上層遺物詳細 ③ (北から)



I-1 上層遺物詳細 ④ (西から)



I-1 中層 礫 出土状態 (北から)



I-1 中層 礫 詳細 (北から見上げ)



I-1 土層断面 (オルソーフोट)



I-2 調査状況 (南西から)



I-3 調査状況 (北から)



I-4 調査状況 (北から)



I-5 調査状況 (西から)



W-1 北トレンチ 調査状況 (南から)



W-1 南トレンチ 調査状況 (南東から)



W-1 南トレンチ 土層断面 (南から)



W-1 中央トレンチ 調査状況 (北から)



W-2 東壁トレンチ 調査状況 (北西から)



W-3 遺物出土状況 (東から)



W-3 発掘 (西から)



W-4 発掘 (北から)



W-5 発掘 (北から)



W-6 発掘 (東から)



W-7 完掘 (東から)



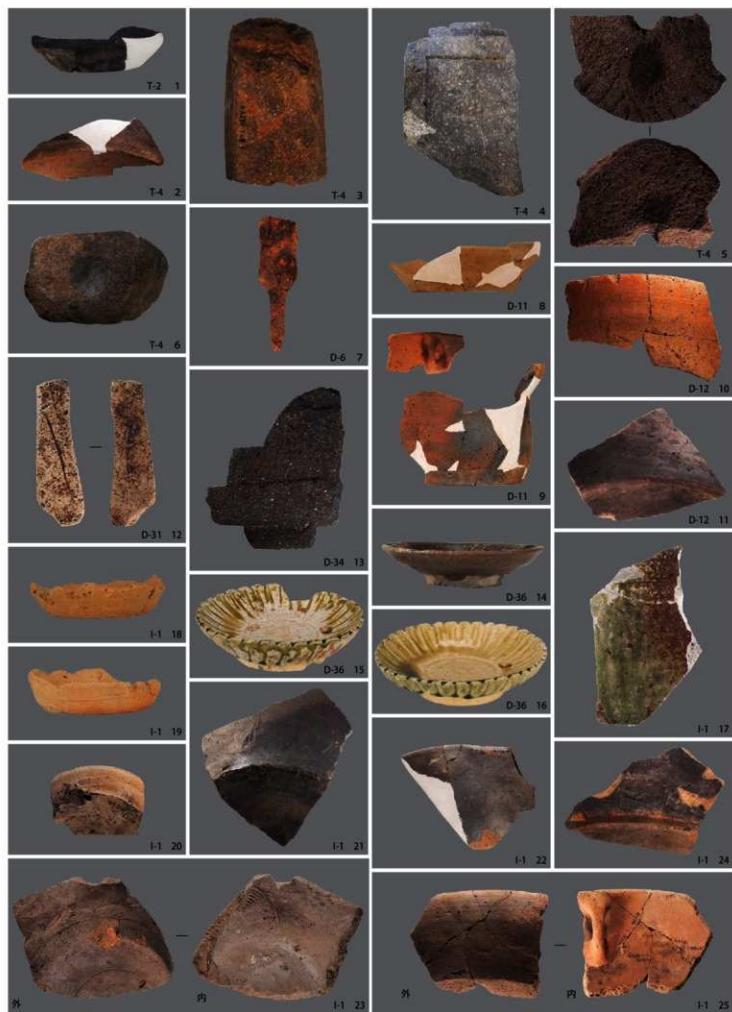
X-1 完掘 (南から)



調査区全景 (北西から)

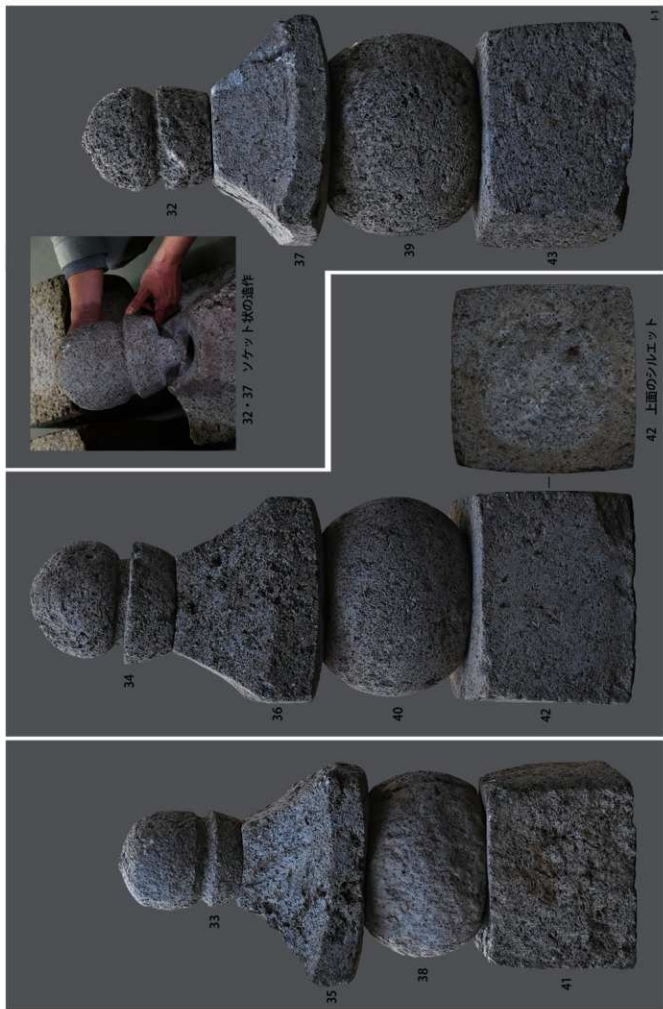


ビット群を前に









はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（148）は古代上野国の中枢地域の調査であり、上野国府推定地域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府跡に築造されたと云われている蒼海城関連の遺跡を検出しました。今回の調査成果をはじめ、これまでに蓄積された資料は、国府や国府のまちを再現するための貴重な手がかりとなります。現状での保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進めることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和6年3月

前橋市教育委員会

教育長 吉川 真由美

例言

1. 本書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（148）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、前橋市（主管課：都市計画部区画整理課）の委託を受け、前橋市教育委員会事務局文化財保護課の指導・助言のもと、山下工業株式会社（代表取締役 山下 高）文化財事業部が実施した。発掘調査から報告書発行までの作業は、前橋市の費用負担で実施した。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。
遺跡所在地 群馬県前橋市元総社町 1889-1 ほか
遺跡略称 4A281 遺跡番号 0142・0147
調査面積 1,000㎡
調査期間 【現地調査】令和5年1月30日～同年3月17日 【整理】令和5年7月7日～同6年1月10日
調査担当者 永井智教 調査員 関口信夫
4. 遺構写真は担当者・調査員が撮影し、空撮は神崎龍太（よろず屋神崎）による。遺物写真は橋本 優が撮影した。
5. 遺構の平面図・断面図の作成は有限会社天田安平商店が行った。
6. 整理作業は永井・関口が担当し、青木あかり・川道みずき・坂井 隆・谷藤龍太郎・富田和美・津田千鶴がこれにあたった。
7. 本書掲載の遺物は、土器・陶磁器・鉄器・小型石製品の実測を富田、大型石製品の实測と観察を関口が、錢貨の判別と測定を坂井が行った。遺物のデジタルトレースは川道・谷藤・富田である。
8. 本書の執筆は、Iが前橋市教育委員会事務局（文化財保護課）、VIは谷畑美帆（明治大学）、他は永井である。
9. 本書の作成にあたり、出土遺物の全般を吉田智哉（東吾妻町教育委員会）、獣骨を宮崎重雄（桐生市文化財調査委員）に鑑定頂いた。
10. 本書の編集は永井監修のもと谷藤・川道が行った。
11. 発掘調査資料及び出土遺物は、一括して前橋市教育委員会が保管している。
12. 調査及び報告書の作成にあたっては、下記の機関・諸氏からご助言・ご協力を賜った。（五十音順・敬称略）
伊藤順一 齊藤達也 佐野良平 高橋清文 前原 豊 山本良太

凡例

1. 遺跡、全体図における X・Y 値は、平面直角座標DC系（日本測地系）の座標値、挿絵中の北は座標北である。
2. 挿絵中で用いる遺構等の略称は以下のとおりである。
【孤立柱建物跡】B 【塀式遺構】T 【土坑】D 【井戸跡】I 【溝跡】W 【ピット】P その他【X】【地乱】K 土器【P】石【S】
3. 遺構図は1/50・1/60・1/80・1/100を基本とし、遺物実測図は1/2・1/3・1/9、各図中には縮尺とスケールを示した。遺構図・遺物図の縮尺について、個々の図中に凡例を明示した。
4. 本書で用いる火山噴出物の略称と年代については以下のとおりである。
【奥山山B軽石】As-B 天仁元年（1108） 【榛名山C軽石】FA 5世紀末 【奥山山C軽石】As-C 3世紀末～4世紀初頭

目次

巻頭図版
はじめに
例言・凡例・目次

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と環境	1
III	調査の方針と経過	5
	1 調査の基本方針	
	2 調査経過	
IV	基本層序	5
V	遺構と遺物	7
	(1) 掘立柱建物跡	
	(2) 竪穴状遺構	
	(3) 土坑	
	(4) 井戸跡	
	(5) 溝跡	
	(6) ビット	
	(7) その他	
VI	人骨鑑定報告	40
VII	発掘調査の成果と課題	41

報告書抄録

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社新海土地区画整理事業に伴い実施され、25日目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成30年9月19日付で前橋市長 山本 龍 (区画整理課) (以下「前橋市」という。)より試掘確認調査依頼が提出された。これを受け、前橋市教育委員会 (以下「市教委」という。)で同年10月30日に試掘確認調査を実施した結果、遺構が検出されたため、埋蔵文化財の取扱いについて前橋市と市教委で協議を行った。工事計画から遺構の現状保存は困難であるため、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意に至った。

令和4年9月30日付で前橋市より、埋蔵文化財発掘調査業務に係る依頼が市教委に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施

中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意に至った。事業実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。令和5年1月17日付で前橋市と民間調査組織である山下工業株式会社との間で業務委託契約が締結されるとともに、両者に市教委を加えた三者で協定を締結し、発掘調査に着手した。令和4年度は現地での発掘作業を山下工業株式会社が受注し、整理作業については令和5年度業務として実施することになった。

なお、遺跡名称「元総社新海遺跡群 (148)」(遺跡コード: 4A281)の「元総社新海」は土地区画整理事業名を採用し、「(148)」は過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。(文化財保護課)

II 遺跡の位置と環境

遺跡の位置

今回報告する元総社新海遺跡群 (148) は、前橋市西部の元総社地区に位置する。昭和40年代の国道17号高前バイパスの開通、昭和50年代の四越自動車道前橋インターチェンジ供用開始と共に周辺地域の区画整理が継続的に実施され、都市化が進んだ。今回の調査原因である前橋都市計画事業元総社新海土地区画整理事業も一連の流れの

中で実施されているもので、平成11年度より開始された事業もようやく終盤に差しかかろうとしている。本地区内では群馬県西部の動脈として期待される西毛広域幹線道路も開通し、元総社地区の変容はより加速的に進むこととなるだろう。

地理的環境

遺跡は榛名山麓東端に位置し、約13,000年前の榛名山系の山体前積である「陣場岩層なだれ」によって形成された広大な扇状地である「相馬ヶ原扇状地」の末端でもある。岩層なだれ層下には、約20,000年前に形成された「前橋泥流」が堆積しており、南東に広がる前橋台地の基層をなしている。

岩層なだれや前橋泥流の上には、「前橋下部泥炭層」の堆積後、浅間-板鼻黄色軽石 (As-YP・約13,000年前)・浅間-総社軽石 (約11,000年前)を含む「前橋上部泥炭層」が堆積し、それを洪水性堆

積物である「総社砂層」が厚く覆う。総社砂層上には黒ボク土が生成された後、浅間C軽石 (3世紀末降下)以降複数回に及ぶ火山灰が被っている。地形を詳しく見ると、扇状地の等高線に直行して下る八幡川・牛玉御川・染谷川・牛池川等の中小河川があり、総社砂層の供給源となる平面、砂層を深く抉る部分も多く、総社周辺の地形を左右したのだろう。また、古墳時代後期の榛名山活断層には、火山灰を泥流として押し流して谷筋を埋め、今日に近い比較的平坦な地形を造り出した。



Fig.1 遺跡の位置

(国土地理院発行 数値地図(250000) 変改版)

歴史的環境

総社周辺は、先述の「総社砂塚」堆積後、地表面が安定して黒ボク土が生成され始めた縄文時代前期以降、遺跡の分布がみられるようになり、古墳時代後期に至り大規模な集落の展開、総社古墳群に代表される首領や大群集規模となるようになる。これについては昨年度発行の(143)報告書においてまとめているため、ここでは今回報告の主体である古代初期以降の様相について触れておきたい。

白鳳期 総社古墳群北方に山王塚寺(c)が建立される。前期埴段階に創設された寺院としては上野唯一のもので、昭和・平成の2回におよぶ確認調査が行われ、出土に見られる線刻・押印から旧寺名が「放光寺」であった可能性が考えられる点、塔塚周辺から出土した大量の塑像から畿内中部の寺院と深く関わる寺であった事が判明している。また、下河遺構から検出されている掘立柱建物や豪族居館や評衙・屯倉といった場合、そうした重要施設を移動させて造営していることになる。また、塑像は造形技術水準の高いもので、作風は現跡法隆寺塔本塑像に類似している。

また、東山道驛路の開墾はこの時期で、今日までの研究によって「牛堀・矢ノ原ルート」→「下新田ルート」→「国府ルート」へ3時期・3ルートの変遷が定説となっている。最初の「牛堀・矢ノ原ルート」は太田一伊勢崎—高崎の平野部をほぼ東西の直線で通ることが発掘調査で判明している。元総社エリアからは遠く南方であり、その間を南北に繋ぐ連絡路として「日高道」が以前より指摘されているが、開墾時期については不明である。

奈良時代 元総社普通海遺跡群の南東、総社神社に近い一帯で惣穴建物跡が姿を消す。代わりに正方位の区画陣や掘立柱建物跡、基礎建物跡が出現する。無論、元総社エリア内に以前より推定されている上野国府との関わりで理解されると考えられるが、国府域の一角に設けられたと考えられる郡馬部跡の可能性が高いと考えられる。現在前橋市教育委員会による確認調査が継続中であり、今後の動向が注目されることである。また、やや標高の高い前橋市池端北耕地下ノ割遺跡(37)では庇をもつ大規模な掘立柱建物跡が単独的に検出されており、その性格については不明であるが、前時代の南下古墳群(カ)や三津屋古墳(ヨ)等が近傍であることから推察すれば、国府の出先施設等の可能性もある。他にも高崎市棟高南八幡街道遺跡(29)には、布棚りの掘立柱建物跡や大形惣穴建物跡からなる公的な雰囲気をもつ遺構群があり、その性格が注意される。

推定国府域の西方には、国分寺(a)・国分尼寺(b)も建立される。

上野国分寺(a)は昭和の調査成果からある程度整備が行われていたが、近年県教育委員会の再調査で伽藍配置が異なることが判明、その研究は新たなスタートに立っている。国分尼寺(b)は近年高崎市教育委員会によって確認調査が進められており、伽藍配置が判明しつつある。

一方で該時期には国府周辺域を含め、古墳群以来の生産域の再編が行われる。前橋・高崎台地とその間の井野川低地帯を包含する広域条里の施工である。前橋市南部拠点地区遺跡群B11では坪交点からまとまった土器の出土が確認され、施工年代を示している。また、条里の施工に伴い用水路網の整備も行われており、前橋台地では広瀬川から取水した用水路網(安清や川曲大溝)が、高崎台地から井野川低地帯では様本白川から取水した用水路網(後の長野塚用水)が開墾されたと考えられる。これらの用水路からは発掘調査によって「器物」と記した遺物が出土している点は注目される。また、交通網の整備も行われたと考えられ、高崎市倉賀野地区や新保・日高地区では条里糸刺帯を利用した道路跡と推定される遺構が検出されている。当該時期に想定される東山道驛路の「下新田ルート」も、現状広瀬川以西では未確認だが、おそらく条里糸刺帯を利用したものであったと推定される。なお、当該期における条里施工は確定であるが、先行する飛鳥時代にその設置に関わりと推定される短命な集落遺跡が点在していることは興味深い。本地地における条里施工時期は、今後も検討を深める必要がある。

平安時代 国府域やその周辺では、集落・寺院・条里は前時代からの継続と理解されるが、集落は標高の高いエリアに集中する傾向が指摘できる。吉野町大久保遺跡(39)はその規模も想定せざるを得ず、畑作や馬匹生産を視野に置く必要があるだろう。かつて「有馬馬牧」の可能性も示唆されたが、その後渋川市半田中原遺跡から「有牛」系土器が出土したことで「牧原係遺跡説」は否定された経緯がある。現状では三宮神社(B)が北に隣接して鎮座していること、古代伝説の可能性もある「鎌倉街道」沿いに位置する点から、群馬郡棟井郷の中心的集落であると考えられる。何にせよ、それら集落の成立背景は条里水田の荒廃と対をなす現象と言えるのだろう。

古代末～中世 元総社地区に普通海が築城される。その詳細な時期や成立過程については不明な部分が多いが、『上毛伝説書記述遺蹟(總社記)』には長元元年(1028)に城館の存在を示す記述があり、実際の発掘調査結果もこれを肯定しているような古代末の遺構・遺物の集積が、普通海中部で確認されている。しかしながらその実体は「区

Tab.1 周辺遺跡一覧

集落	14	大屋敷遺跡	28	棟高北遺跡	42	日輪寺観音前遺跡	ヲ	高塚古墳	
1	元総社普通海遺跡群	15	総社町加敷遺跡	29	棟高南八幡街道遺跡	43	南城東原遺跡	ワ	大教山古墳
2	元総社寺田遺跡	16	大渡道場遺跡	30	黒野堂遺跡		古墳・古墳群	カ	南下古墳群
3	大友塚遺跡	17	前橋城	31	井出村東遺跡	イ	総社二子山古墳	ヨ	三津屋古墳
4	天神遺跡	18	石倉下宅地遺跡	32	三ツ寺1遺跡	ロ	愛宕山古墳	タ	清里・長久保古墳群
5	赤野遺跡	19	元総社稲葉遺跡	33	三ツ寺2遺跡	ハ	宝塚山古墳		神社
6	中尾遺跡	20	新保田中村前遺跡	34	三ツ寺里遺跡	ニ	蛇ヶ山古墳	カ	総社神社
7	烏羽遺跡	21	日高遺跡	35	棟高遺跡群	ホ	棟高山古墳	ク	三宮神社
8	上野国分寺・尼寺中間	22	小八木村東遺跡	36	北谷遺跡	ヘ	大久保山古墳		寺院
9	国分宮遺跡	23	正観寺遺跡1～4	37	池端北耕地下ノ割遺跡	ト	桶倉山古墳	a	上野国分寺
10	北原遺跡	24	小八木志志貝戸遺跡	38	七日市遺跡	チ	玉山古墳	ト	上野国分尼寺
11	下東西遺跡	25	正観寺西原遺跡	39	大久保A遺跡	リ	諸江古墳群	ク	山王塚寺
12	柿木遺跡	26	中泉南内遺跡群	40	黒野・辺玉遺跡	ヌ	如來古墳群	d	新保寺
13	村東遺跡	27	菅谷万年貝戸遺跡	41	金竹西遺跡	ル	長久保古墳群		

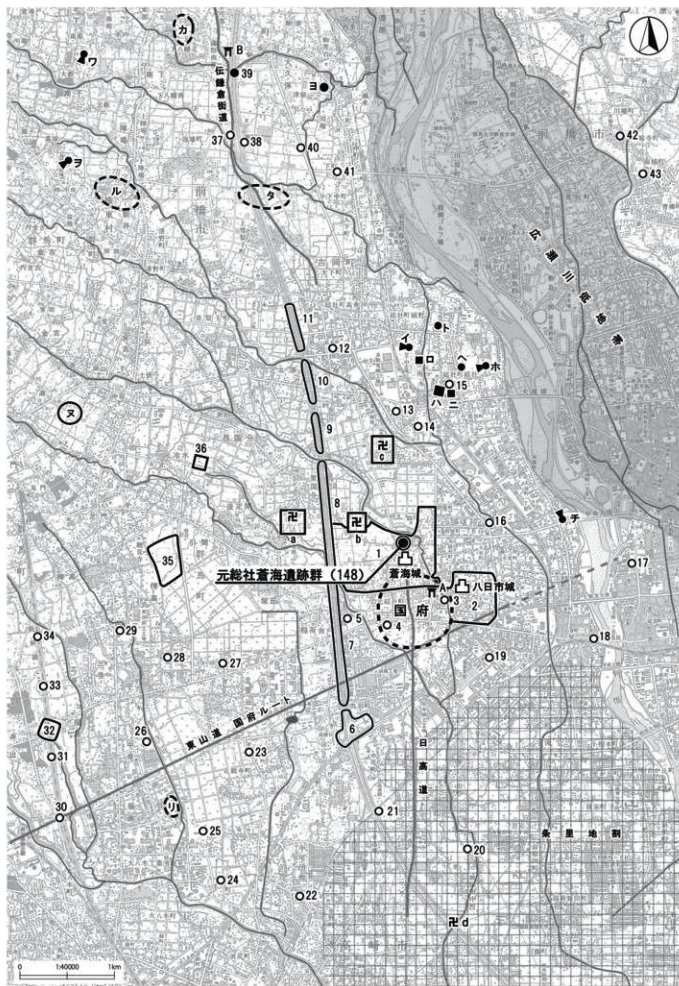


Fig.2 元総社蒼海遺跡群 (148) の周辺遺跡

両溝に囲まれた何か」で、居宅のようなものと推察される。『吾妻鏡』には、治承四年（1180）に元総社地区を支配していた源氏方の千葉常胤の居宅を平氏方の足利俊綱が焼き払ったとの記述があり、まさにその千葉氏の居宅が普海城初期の姿であったと思われる。

その後、建武四年（1337）に山内上杉憲朝が上野国守護に、上杉氏家宰である長尾氏が14世紀中頃までに入部したと考えられ、長尾氏は白井城の白井長尾氏と普海城の総社長尾氏とに分立、守護代として栄える。享徳三年（1454）に始まる享徳の乱は東国全域を巻き込む戦乱となり、上野国でも長尾景春の乱（文明九年・1477）や長享の乱（長享元年・1487）が相次いで勃発する。これらの戦乱を契機に普海城は城郭化したようである。

大永七年（1527）には北条氏綱方の白井・総社長尾氏と箕輪・厩

橋長野氏の間で抗争が勃発、普海城は長野方策の攻撃を受けている。後に両長尾氏は上杉家との関係修復を果たすも、長野氏とは依然緊張関係が続いた。永禄九年（1566）、甲斐国の武田信玄によって箕輪城が落城、翌年には普海城も攻略され上野国西部は武田氏の支配域となる。以降、元総社地域は武田・上杉・織田・北条の支配が繰り返され、天正十八年（1590）の小田原城落城によって徳川家康の支配域となる。普海城には同年に諏訪頼忠、慶長六年（1601）にはその子である諏訪頼水に替わって秋元長朝が入部する。秋元氏は荒廃した普海城を捨てて父景朝ゆかりの地である上野勝山（現在の総社町）に新城を築くことを選んだようで、新城が完成するまでの間は普海城の東方牛池川対岸の八日市城に居住し、慶長十五年（1610）に完成した新城である総社城に入城、これをもって普海城は廃城となった。

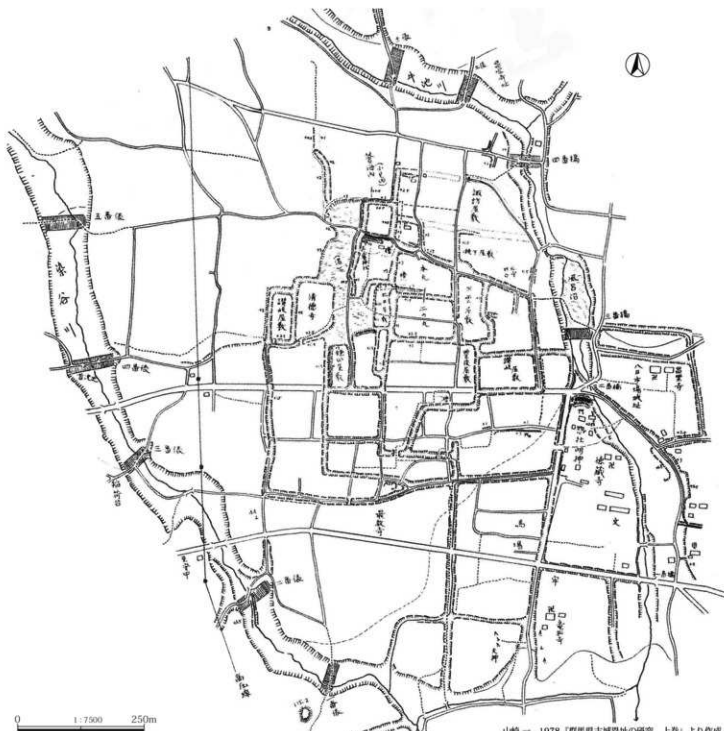


Fig.3 普海城縄張り図

山崎一 1978『群馬県古戦場域の研究 上巻』より作成

Ⅲ 調査の方針と経過

1 調査の基本方針

今回の発掘調査は、区画整理事業地内の道路新設に先立つものである。近年まで畑地として利用されていたほか、元は接骨院を営んでいた住宅があり、新設道路敷に一部かかるが未だ居住者がいる為、今回の調査区からは除外となった。

畑地部分には南北方向の段差があり、蒼海城本丸西側へ続く堀跡で

あることは、蒼海（143）等の調査成果から明らかであった。こうした経緯から、今回の調査は事前の確認調査は行わずに本調査となった。現地調査は基本、蒼海城堀跡部分に排土山を形成し、そこに取まりきらない排土は東側の事務所・駐車場用地内に集積した。堀跡以外の表土は薄く、耕作土層直下の総社砂層上位を遺構確認面とした。

2 調査経過

調査は冬から春にかけてという最悪の条件下であった。総社砂層が露呈した調査区では、北側隣接の（143）とは打って変わって中世の夥しいピットをはじめとする濃密な遺構群が現れ、調査する端から北西の季節風による砂塵で埋まる始末で、現地での掘立柱建物跡の検討も儘ならず、遺構の切り合いについても平面確認を主に行いつつ進めたが、時間的制約もあり、ピットについては結果として丸掘りとならざるを得なかった。

調査序盤では蒼海地区最大かと思われる中世の大規模井戸跡から五輪塔部材が多数確認され、その記録が主眼となった。

終盤に至ってピットの多くが掘り上がってくると、掘立柱建物跡が

いくつも存在することが明らかとなった。現地での検出は時間・環境の悪化によって困難であった為、夕刻等の風が弱いタイミングを狙ってドローンを飛ばし、オルソフォトを作成、夜な夜なパソコン上でピットを結線し、翌日の日中にはそのラインでエレベーション図を作成した。

整理作業と報告書作成は、契約締結後の令和5年7月から開始。遺物の水洗・注記・接合、8月から遺物実測に着手、12月まで要した。その後図版作成と原稿執筆、編集を経て、3月上旬に本書の刊行に漕ぎつけた。

Ⅳ 基本層序

調査区は北西から南東方向へ傾斜する緩斜面地であったようだが、中世に大規模な造成を受け、薄い表土層下にはほぼ水平の面を成していた。表土中には元総社地区では普遍的な浅間系のテフラもほとんど確

認されず、古墳・古代の明確な遺構もほぼ確認されないことから、比較的厚く剥土されたことが予想された。以下が、本地点の基本層序である。

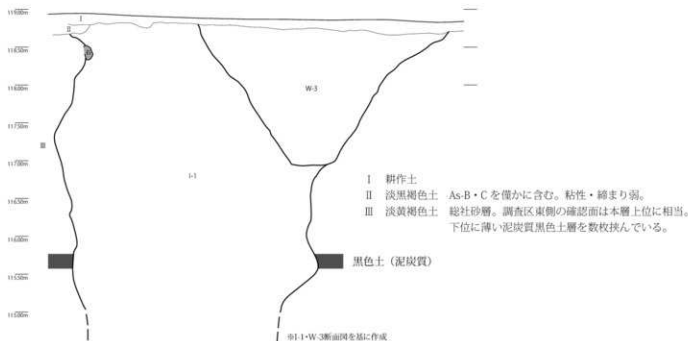


Fig.4 基本層序模式図

V 遺構と遺物

今回報告する元総社普海遺跡群(148)の調査区は、北に令和3年度調査の普海(143)、調査区内には平成12年度調査の元総社宅地遺跡10トレンチ、平成23年度調査の上野国府等範囲内容確認調査の7トレンチが存在している。宅地遺跡10トレンチについては今回調査でW-2とした普海城跡内に相当し、掘り下りに深度2m程度で掘り下りお断された状況が確認された。一方の国府7トレンチでは土坑・井戸・ピットと共に古墳時代後期と推定される竪穴建物跡の残骸が1軒確認されているが、今回の調査区からは外れた位置であった。

今回の調査区で確認された遺構は、(143)で確認された上野国府ないしは群馬郡衙に伴う正倉区画と推定される古代溝の延長が確認されたほかは、全て中・近世と考えられるものであった。これはIVの基本層序でも触れたが中世段階で大規模な削土による造成を受けた結果と思われる、恐らくは普海城の造営に伴うものと推定された。これによって古代とそれ以前の古墳時代の竪穴建物跡等の比較的良好な遺構は消滅したものと推定される。北隣接の(143)調査区東側でも、今にして思えば同様の状態であったが、そちらでは古墳時代後期や平安時代の竪穴建物跡が窺いながらも残存していた。想像するに(143)より今回調査区の方が標高が高く、中世段階で水平に削土した結果、古墳・古代の遺構のほとんどが失われたものと理解される。

今回確認された中・近世の遺構は、普海城の大規模な堀跡と、その内側から確認された竪穴式遺構・土坑・井戸跡・区画溝であった。それらは普海城跡域によって切られるものもあり、普海城の本格的な造営に先行する遺構が一定数存在していることを教えてくれる。また、確実な近世に下ると思われる遺構は農地等に伴う区画溝や土坑墓であり、普海城の廃城以降の土地利用を示すものと言える。以下、詳細な数値等は一覧表や平・断面図に譲るものの、遺構種別別に説明を行う。

(1) 掘立柱建物跡(略称B)

現場段階で7棟を認定した。他にも候補は多くあるが、机上の空論の語りを免れない部分もあるため、ここではあえて触れない。

B-1 調査区北端付近で確認された。当初は単独のピットや土坑として調査を開始したが、異常に深いもの(D-1・5内ピット、P-310等)から銭貨が数点出土したこと、地盤と考えられるP-5(かわかけ2枚を合わせ口にし、中に銭貨19枚と棒状鉄器を封入したものが出土)の存在から建物と認定した。柱穴は深いもので2m近く、建物内側に向かって転びかたつように斜行している。具体的な建物構造については不明だが、柱穴の深さ等から、掘立柱構の可能性が高い。また、柱穴の配置からは複数時期を想定できるが、具体的な建て替えの順は不明である。D-3・4・5・15も、位置関係から付帯する施設の可能性もある。また、南西隅の柱穴は方形型竪穴遺構のT-1と重複し、本遺構の方が新しく、遺構の角度も異なる。時期についてはP-5の地盤出土の銭貨やかわかけから16世紀前半と考えられる。

B-2 B-1の南にあり、梁行2間×桁行4間の東西棟で北面に1間の庇を有する。明確な床束は確認できなかった。北西に重複する方形型竪穴遺構のT-1と類似の角度で、ほぼ同段階と考えられるが、重複の前後関係は不明であった。さらに前後関係は明らかにできなかったが、掘立柱建物跡B-3~6と重複しており、B-3・4とは角度がほぼ一致することから同段階での建て替えと考えられる。

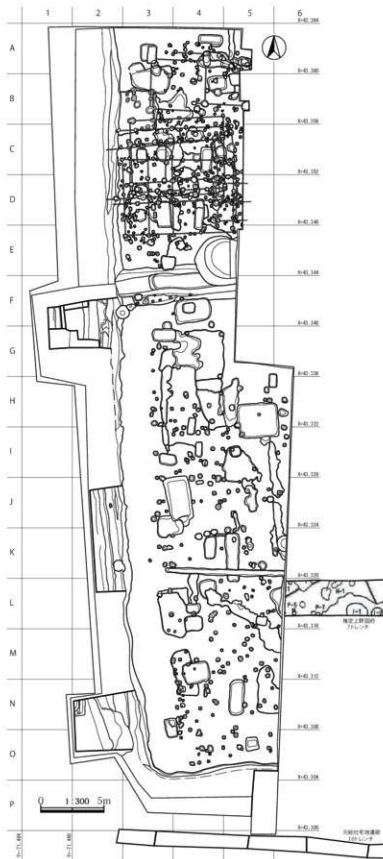


Fig.6 元総社普海遺跡群(148)全体図

B-3 B-2のやや南に主体があり、梁行2間×桁行5間以上の東西棟で、柱間が揃い、南面に庇が存在する可能性もある。床束は確認できなかった。北西に重複する方形型竪穴遺構T-1と同角度で、ほぼ同段階と考えられるが、重複の前後関係は不明である。西端は普海城の堀跡であるW-1に切られている。さらに前後関係は明らかに

できなかったが、掘立柱建物跡B-2・4・6と重複しており、B-2・4とは角度がほぼ一致することから同段階での建て替えであろう。

なお、本遺構の柱穴であるD-11からは15世紀後半～16世紀前半のかわらけ・内耳銅が出土しており、時期の一端を知ることができている。

B-4 B-3のやや南に主体があり、梁行3間×桁行4間以上の東西棟で、柱間は比較的揃っている。南・西面に庇、屋根に床束を認めれば高床建物であったのだろうか。南東隅のP-215には礎石の自然的石が露出する。西端は善海城の礎跡であるW-1に切られている。さらに前後関係の不明な、掘立柱建物跡B-2・3・5・6との重複があり、B-2・3とは角度がほぼ一致することから同段階での建て替えと考えられる。

B-5 B-4の南に主体があり、梁行4間×桁行4間を基調とした東西棟のようだが、柱間は揃っていない。建物内の柱穴を床束とするなら、建物の西半分は高床であったと思われる。床束相当のP-126には礎石が認められる。前後関係の不明な、掘立柱建物跡B-2・4・6との重複があり、B-2・4とは角度やや異なり、B-6とはほぼ一致する。

B-6 B-5の東に主体があり、東側の大半が調査区外で不確定要素が強い。前後関係の不明な、掘立柱建物跡B-2・5との重複があり、B-5と角度がほぼ一致している。本遺構の柱穴であるD-11からは15世紀後半～16世紀前半のかわらけ・内耳銅が出土しているが、B-3の柱穴と重複しているため、どちらに伴うかは断然としない。

B-7 調査区のほぼ中央に位置する。梁行1間×桁行3間の南北棟で、柱間は揃わずに柱穴も小さい。整理段階で平面図を検討すると、本遺構から南北に棚列を想定することも可能で、西側の善海城礎跡(W-1)と角度的に親和性が認められる。遺物は無く、従って時期不明であるが、善海城に伴う防衛的機能をもった建物の可能性が推測できる。

(2) 竪穴状遺構 (略称T)

現場段階の附番で7基あるが、単純な土坑や地下式坑も含んでいる。本来的には、T-1・2のような、方形の竪穴状の観察に柱穴が伴うものを竪穴状遺構とすべきであったと考えられるが、ここでは現場段階での附番のまま提示する。基本的に全て中世ないしは中世以降とされている。

T-1 調査区北端近くにあり、掘立柱建物跡群(B-1～3)と重複し、善海城礎跡(W-1)に切られている。掘立柱建物跡との重複は、土層断面の観察から本遺構がB-1の柱穴に切られている以外は不明であるが、調査者所見ではB-2・3とは本遺構が切っている可能性がある。前節で触れたが、本遺構より新しいB-1と、古い可能性のあるB-2・3で平面角度が異なっている点、B-2・3と本遺構がほぼ同じ平面角度である点より、本遺構の方がB-2・3と同段階に機能し、機能的にも補充関係にあった可能性が考えられる。但し明確な出土遺物が無く、密着には時期不明であるが、類似形跡のT-2出土のかわらけが示す16世紀代の遺構であると考へておきたい。

T-2 調査区の中央やや北寄りにあり、善海城礎跡(W-1)に直行する区画溝(W-3)に大半を切られている。形態的にはT-1とはほぼ同じと考えられるが、本遺構の方が方形の柱穴が多い。底面からやや浮いた状態でかわらけ(図-1)が出土しており、形態的には16世紀代である。

T-3 調査区のほぼ中央にあり、T-1・2とはほぼ同角度で東西軸の長方形プラン、規模的にはT-1・2より一回り小さく、柱穴も確実なものも認められない。南辺やや東寄りに出入口を思わせるス

テップ状の突出部がある。古代～中世の土器細片が出土しているが、図示に堪える出土遺物は無い。

T-4 調査区の中央やや南寄りにあり、T-1～3とはほぼ同角度で南北軸の長方形プラン、南側に出入口を思わせるステップ状の突出部、土層断面には天井崩落と判断される地山土壁上が認められることから、地下式坑と判断される。出土遺物は出入口から内部へ流れ込んだ状態で砥石・宝鏡目略・石臼の破片と盃状穴石、瓦質土器内耳銅の破片が出土している。内耳銅は15世紀後半～16世紀と考えられる。

T-5 T-4を切る土坑で、北西軸で不整形な隅丸方形プランを呈する。鉄鏝・常滑焼片・台石?が出土しているが、図示に堪える出土遺物は無い。

T-6 調査区南半にあり、南北軸の長方形プランの浅く大きな土坑に、小規模な隅丸方形の土坑が重複している。

T-7 調査区中央にあり、T-3のすぐ南に位置する。不定形で浅く大きな土坑で、新田平野がD-26と重複している。あるいは一連の施設であった可能性がある。

(3) 土坑 (略称D)

現場段階の附番で36基ある。形態的には長方形や隅丸正方形の整った印象のものが多いが、かなり不定形のものもあり、深さについてもまちまちで、その性格については一概に捉えられない。以下、代表的なものについて触れる。

D-1・2は掘立柱建物跡B-1を構成する柱穴やその布張り部分、**D-3・4・5**は同じくB-1の付随施設の可能性があると考えられる。**D-6**はW-3に切られ、古代～中世と考えられる鉄槍が出土している。**D-9・13・30・36**は南北軸の長方形土坑で、D-36の南端からは近世の陶磁器皿が3点出している。これを根拠とすれば草庵の可能性が考えられ、陶磁器は足元へ調整されたと解せるが、如何せん骨が遺存していない点がよく不可解である。本遺構の基盤となる礎石砂層はロームと異なり一般に骨の遺存状態は全時間隔して良好な場合が多い。推察するには、改葬によって骨が取り出されたのかも知れない。**D-12・17**は方形土坑の観察に柱穴が伴うもので、D-12は1m四方の正方形、D-17は1.2×2mと規模的には小さいもので、方形竪穴状遺構とすべきものだろう。D-12からは15～16世紀の内耳銅片が出土している。**D-31**も柱穴こそ無く、規模や形状からはやはり方形竪穴状遺構の一種である可能性もある。砥石が出土している。**D-26**は隅丸正方形で比較的大きいもので、掘削途中で放棄された井戸の可能性がある。**D-34**は非常に不整形な平面形で、根拠跡のような性格が考えられる。宝鏡目略の破片が出土している。

(4) 井戸跡 (略称I)

6基を確認した。出土遺物から全て中世と考えられるが、安全面から底面まで完備できたものは無い。I-4～6はW-1に切られた状態で、I-6については確認のみである。以下、比較的调查することができたI-1について説明する。

I-1 調査区北寄りにあり、東側の半分近くが調査区外となる。口径4mの大型井戸で、セツバクで、4mまで掘り下けたが底面に到達する気配すら無かった。土層はほぼ理め戻しと考えられる状態で、土層からは五輪塔3組と石臼・羽口が、常滑からは多量の円礫が南側から流れ込んだ状態で堆積しており、常滑の筋筋と思われるものや在地産の楕丸、かわらけ等の破片、人骨が混在していた。状況的には近傍に存在していた墓地を根こそぎ埋められたかのような状況である。なお、W-3と重複しており、本遺構を埋めた上に開削されている。時期については出土遺物に幅(13～16世紀)があるものの、主体となる遺物が示す16世紀前半頃と考えられる。

(5) 溝跡 (略称W)

6条を確認した。基本的には全て中世、晋海城に伴う堀や区画溝と考えられる。以下、各遺構について説明する。

W-1 調査区西端で南北方向に確認された。(143)の調査区中央を南北に貫いていたW-1と同じ遺構で、晋海城強固区にも表現される。城内でも主要な堀の一つである。調査区南端近くで東方に屈曲しており、(143)北端での屈曲から南へ103 mの位置であり、総社長尾武成城跡の城の変現していると考えられる『晋海城図説』(総社資料館蔵)に「堀跡図説」と記される曲線の南北規模が確定したことによる。

本遺構の西側立ち上がりは調査区外となっており、北・中央・南トレンチ3箇所限定調査となっていた。

W-1北トレンチでは底面が平坦と深い箱築研削状の部分と、東側立ちがりの上部を垂直に切りなおすテラス部が把握され、断面観察で後者は断面U字状の小規模な堀となっており、この間の深い箱築研削はaないしはb期、テラス部の小規模な箱築研削はc期に相当すると思われる。(143)においてa期とした部分を堀底に開削された水路部分とすると、今回aないしはb期とした底面は水路部分との間に掘り残されたテラス部で、水路部分は西側調査区外にある可能性がある。aないしはb期の堀立ち上がり部分が張り付くように、石臼(51)が出土した。

W-1中央トレンチでは、(143)c期の小規模な堀の部分を確認することができた。東側の立ち上がり上部はほとんど表土を被っていない状態で、傾斜も緩くなっていることから、近世以降の改変によって削られたまようである。

W-1南トレンチでは、(143)a・b・c期の3段階が確認された。a期の堀は底面が平坦で、東下端からやや離れて水路部分が確認された。b期はD断面の20層上面が底面と考えられ、比較的平坦である。a期との間には堀の肩を突き崩したような堆積も確認された。c期は中央トレンチと同様の形状である。a期の水路内から取銅屑のかわらけ(47)、c期の堀底からやや浅い状態で陶器の瓶(40)が出土している。

以上の3箇所観察されたW-1の形態は一定せず、同一遺構上流の(143)W-1とも異なる形状であった。本遺構は、軽固や縄強固から想像すると、牛滝川から取水した後に本丸とその周囲の曲線の間を流れ、最終的には染谷川に落ちる水路という側面を持っていたと考えられる。水流の維持管理に伴う定期的な放棄や、防衛機能を期待された時期もあったのだろう。そうした経緯の中で幾度となく形変化した結果が、調査区ごとの形態の相違点として見えている可能性を指摘しておきたい。

W-2 調査区南端付近で東に屈曲したW-1である。基本的には同じ遺構である。調査区の制約で、今回は十分な調査ではなかった。令和5年度の(149)で改めて調査しているので、詳細についてはその報告に譲るものとする。

W-3 調査区中央やや北寄りで確認した、東西方向の区画溝である。T-2とI-1・D-6を切っており、西端はW-1に切り替わっているが、直接的な切り合い関係は土層では把握できなかった。断面は逆台形で上幅は約3 mで、中央西寄りの段差を境に東側が深くなっており、断面観察ではI-1と重複する部分は深く掘り過ぎた部分を埋めて陸床状に整えられたようである。また、底面段差部分より西側、W-1までの3 m程の間は地山主体土が堆積しており、C・ライソの土層断面に土手状の層序が見えていることから、埋戻による土盛であったと考えられる。推定される順としては、当初東西の区画溝として存在していた本遺構に、直行する位置関係にW-1が開削、その

際幅3 mで埋土して土盛を造成、となる。この土盛下の溝底面からは散骨が数点出土している。宮崎重雄氏(桐生市文化財調査委員)に鑑定して頂いたところ、全て小型溝で同一深さと考えられるという。土盛下から馬骨出土という事実は極めて興味深いものの、何段の意味があるのか、類例の有無を含め検討課題となる。他に底面の段差下から、礫の集中と共に瓦質土層の内耳礫(53)が破片で散在的に、鉄質38点が一部固着してまとまりで出土している。また、覆土中には焙烙(54・55)、羽上(56)、石臼(57・58)、石臼未成品(59)、小型破片(60)、宝篋印塔片(61)が出土している。なお、石臼未成品と判断した(59)は黒色の安山岩製で、ハツリによる調整中に破損して廃棄されたと思われる。近傍で石臼製作が行われた証拠はあるが、本遺跡で唯一点、県内でも類例の少ない資料であることから、その評価については慎重となる必要がある。注記についてはI-1でも出土しており、D-6出土の鉄釘を仮設と理解すれば、近傍に鍛冶工房を想定させる資料と言える。

W-4 調査区北端と中央付近で断続的に確認された。底面が僅かに残存する程度で、(143)のW-2と同じ遺構である。遺物は出土していないが、(143)で重複する竪穴建物跡の時期から、8~9世紀の区画溝と考えられる。(Ⅷ章にて再述)

W-5 調査区中央付近で確認された。極めて浅く断続的だが、W-1とはほぼ平行している。同様の遺構として、(143)W-3があり、位置関係からすれば同一遺構の可能性が高い。また、やや恣意的だが本遺構の延長線aないしはb期とする位置関係にビットが並ぶ。これを積極的に評価するならば、W-1に付帯する土塁やその土止め柵、防御柵の痕跡なのかも知れない。(Ⅷ章文末にて補足)

W-6 調査区南半で確認された。東西方向の溝で、比較的に明確な掘り方であるが、西端はW-1手前3 m弱で途切れている。中世と考えられる竪穴建物跡等が基本的にW-1と並行・直行的軸方向のものに対し、本遺構はほぼ座標の逆方向で、むしろ冨の宅地と同じ角度である。出土遺物は無く、覆土に特徴的なテフラを含まれていない為、時期判定は難しいが、近世以降の地盤溝と思われる。

(6) ビット (略称P)

507基を確認した。これらは先述のように掘立建物跡を構成する柱穴と認定されるものもあったが、大半は単独遺構とせざるを得ない。とは言え、総社周辺の中世に特徴的な方形プランのものも多く、何らかの柱穴と考えられるものも相当数ある。

W-3を境にしてその密度は異なり、掘立建物跡が集中する北半には単独のビットも多い。つまり単独のビットの多くは、掘立建物跡の構成要素(構造的な補助柱穴や建物築造時の足場柱)であったと考えざるを得ない。

W-3の前では密度は低く、全体に浅い。これは南半がビット群形成後に削平による造成を受けたことを推定させた。

また、1号掘立建物跡(B-1)の項で説明したが、P-5としたものは柱穴ではなく、かわらけと板を合わせ口にし、鉄質と棒状鉄器を封入したもので、地鎮と考えられる。

個々のビットについては一覧表を参照された。

(7) その他 (略称X)

調査区南半に、北西から南東方向の不定形な落ち込みが確認され、これをX-1とした。詳細に見ると、基盤の総社砂礫の菓理構造に沿ったもので、削平時に砂礫の目に沿って斜がり取った際に深くなくなった部分のようである。いくつかのビットや土坑と重複しているが、本遺構の方が新しい。前項で説明したように、ビット群を浅くした要因である、造成に伴って生じたものと考えられる。

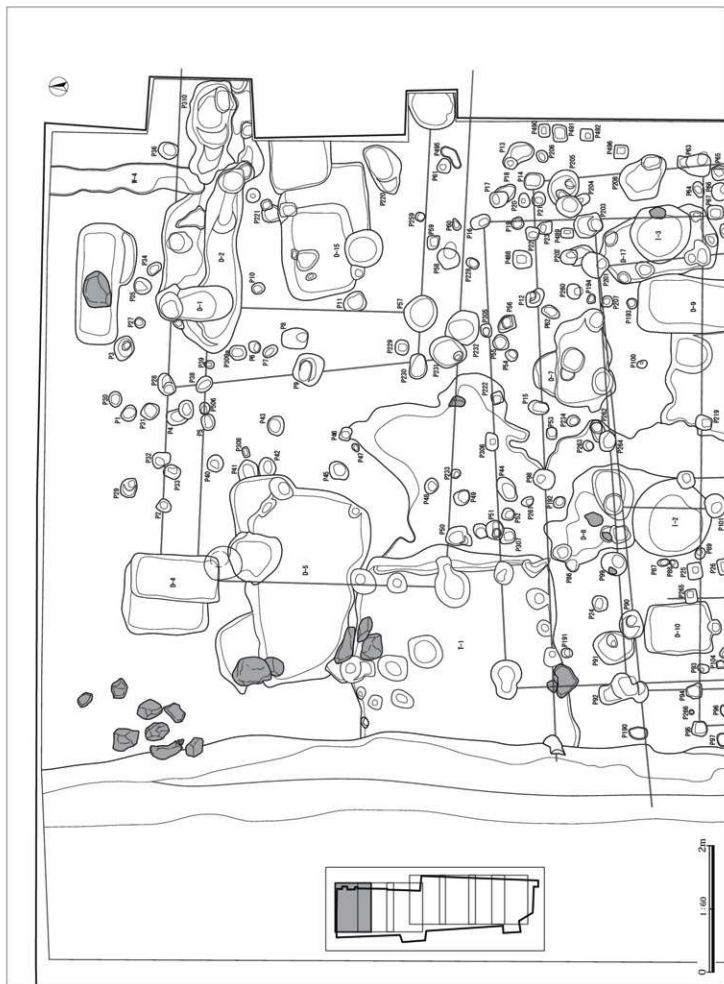


Fig.7 元総社新海道跡群 (148) 全体図 その1

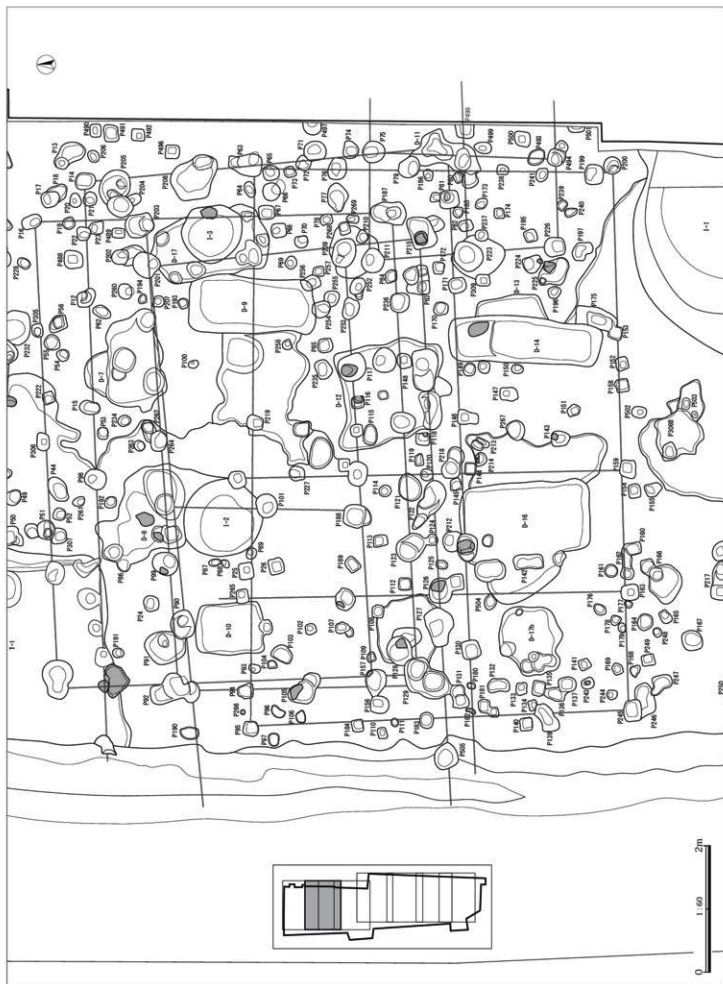


Fig.8 元総社新海道跡群 (148) 全体図 その2

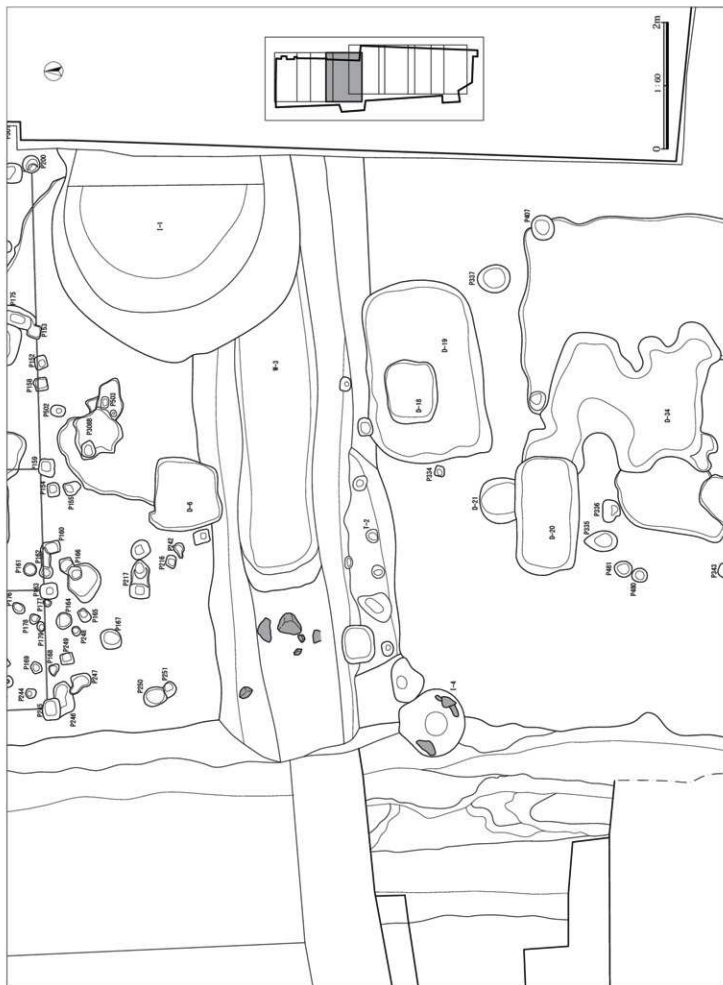


Fig.9 元総社新海道跡群 (148) 全体図 その3

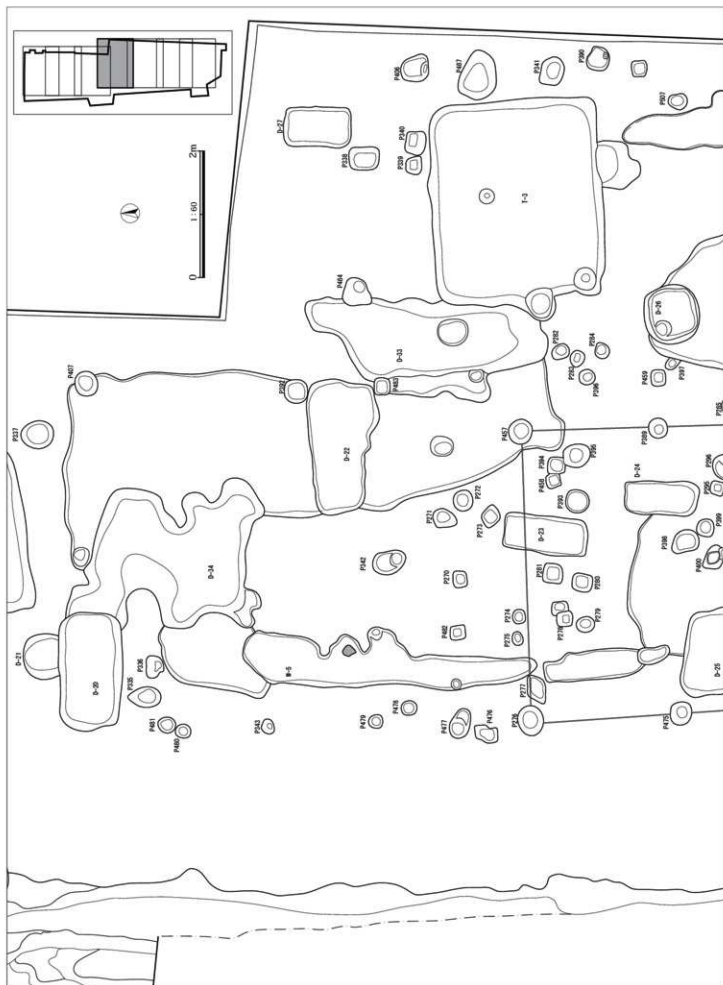


Fig.10 元総社蒼海道跡群 (148) 全体図 その4

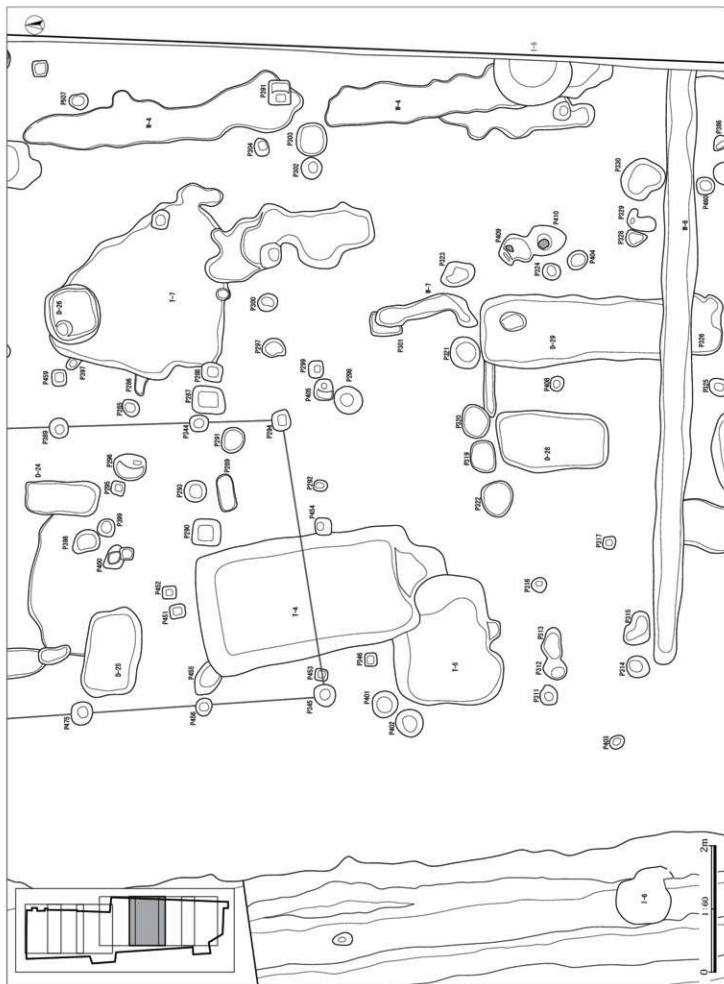


Fig.11 元総社普海遺跡群 (148) 全体図 その5



Fig.12 元総社舊海道跡群 (148) 全体図 その6

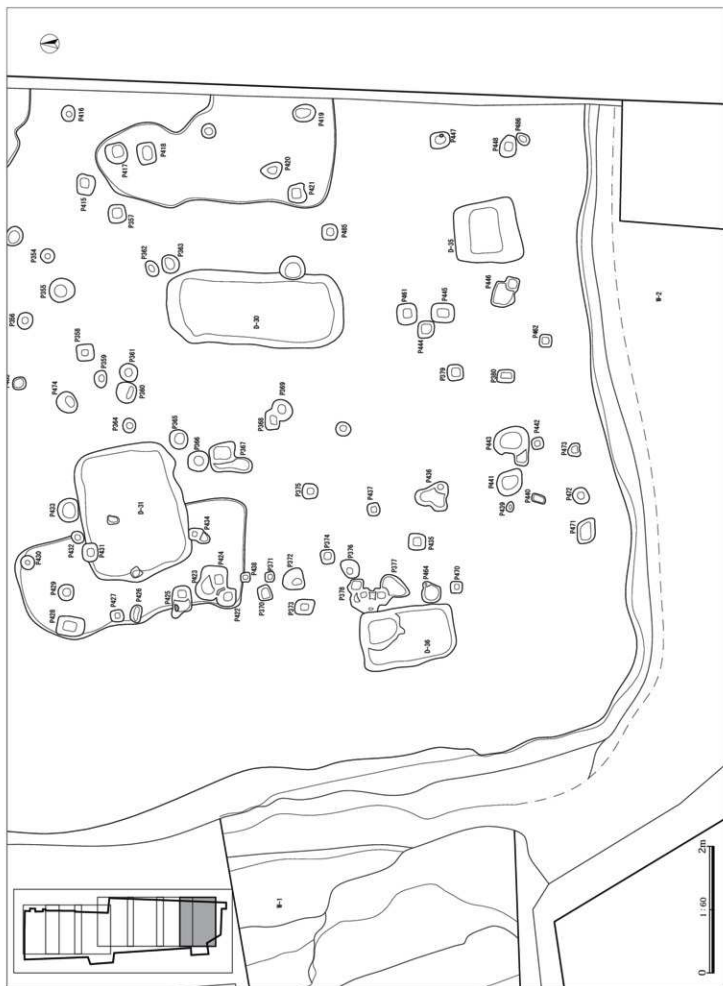


Fig.13 元総社普海遺跡群 (148) 全体図 その7

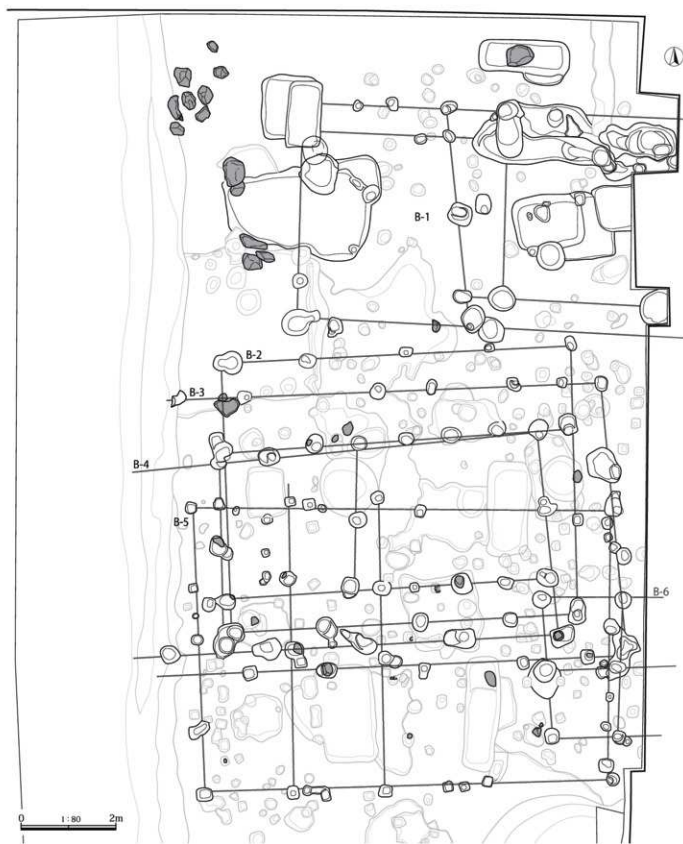


Fig.14 掘立柱建物跡 (B-1-6) の位置関係

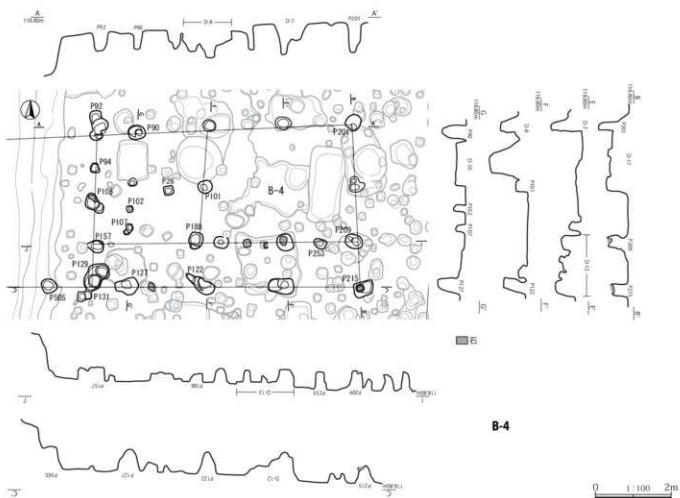
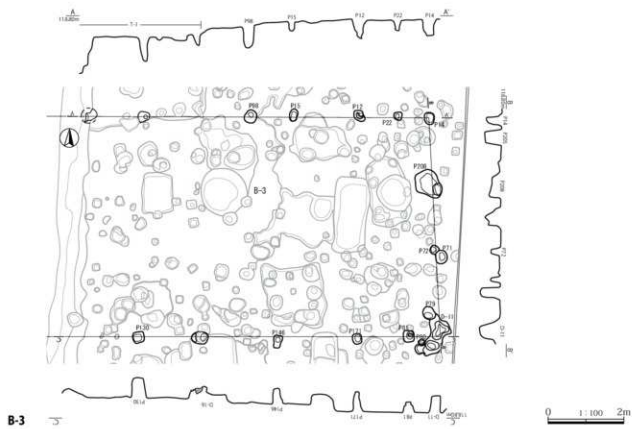
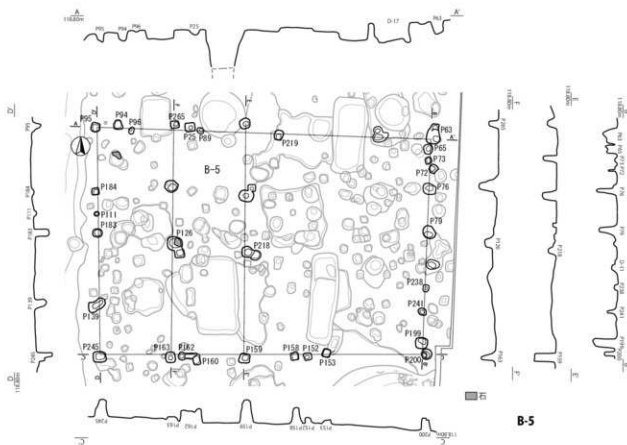
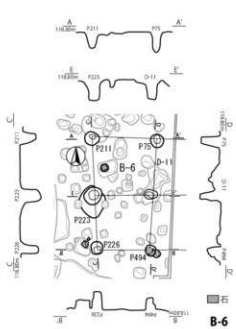


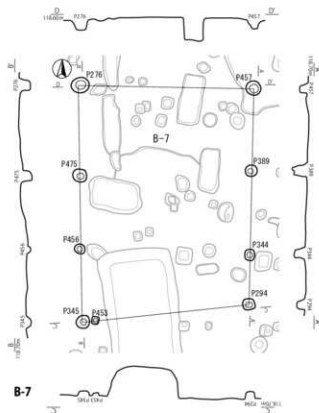
Fig.16 掘立柱建物跡 (B) その2



B-5



B-6



B-7

Fig.17 掘立柱建物跡 (B) その3

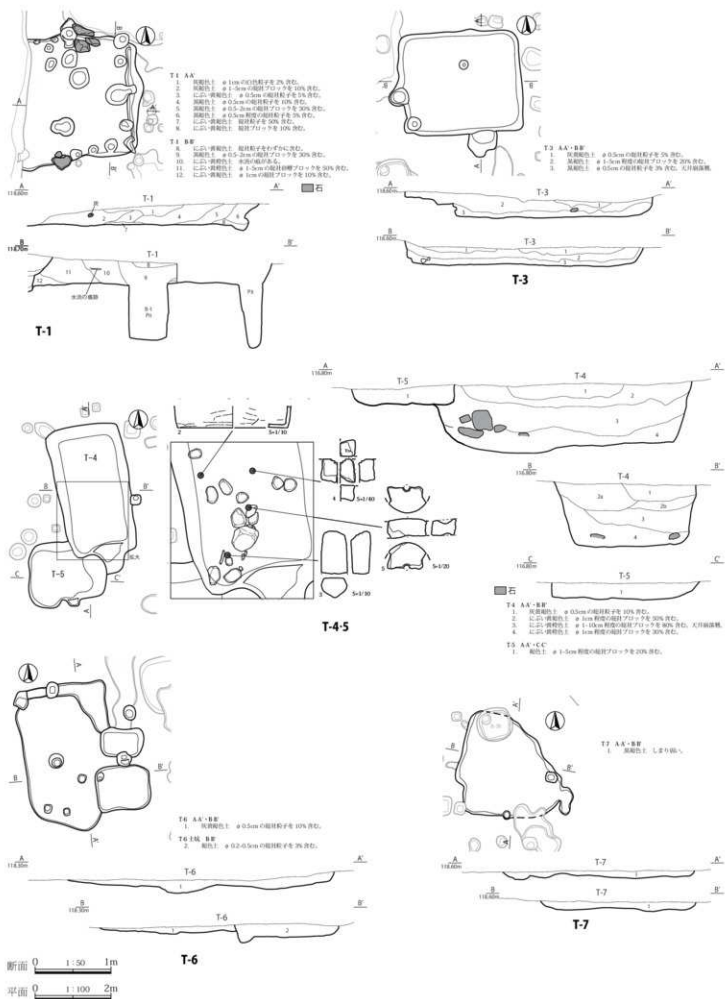


Fig.18 竪穴状遺構 (T)

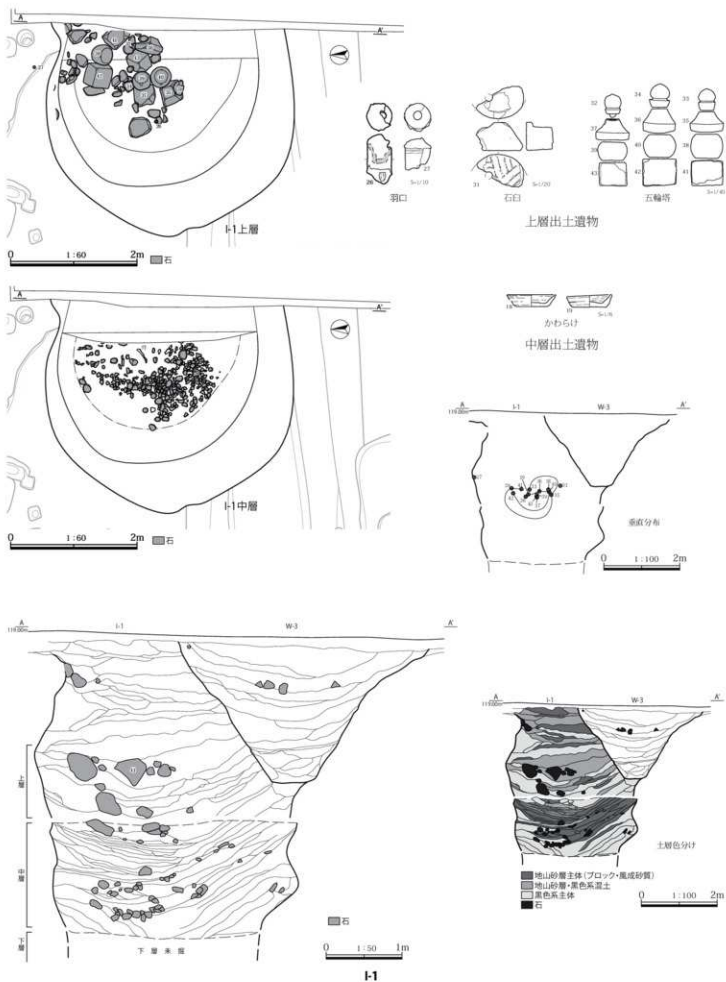
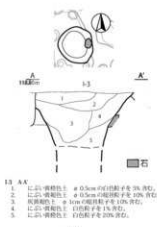
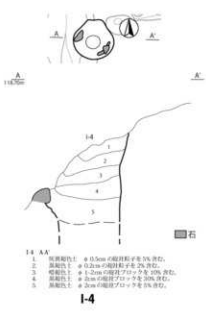


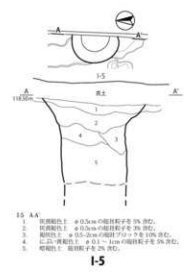
Fig.20 井戸跡 (1) その1



I-3



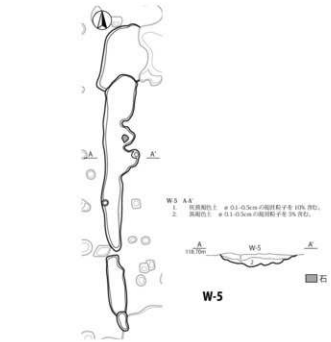
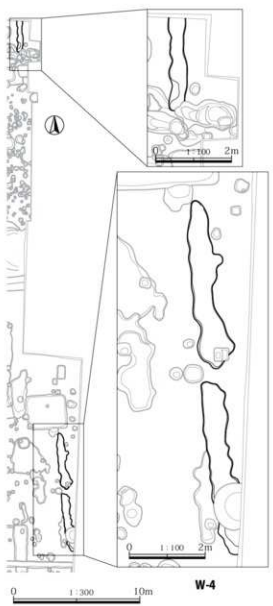
I-4



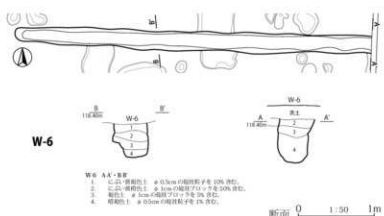
I-5

断面 0 1:50 1m
 平面 0 1:100 2m

Fig.21 井戸跡 (I) その2



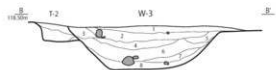
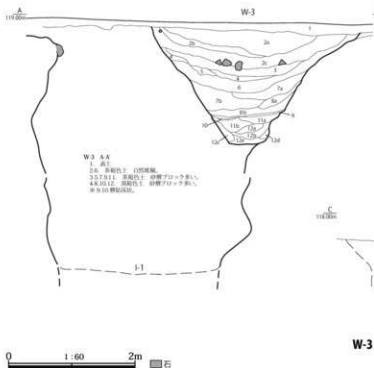
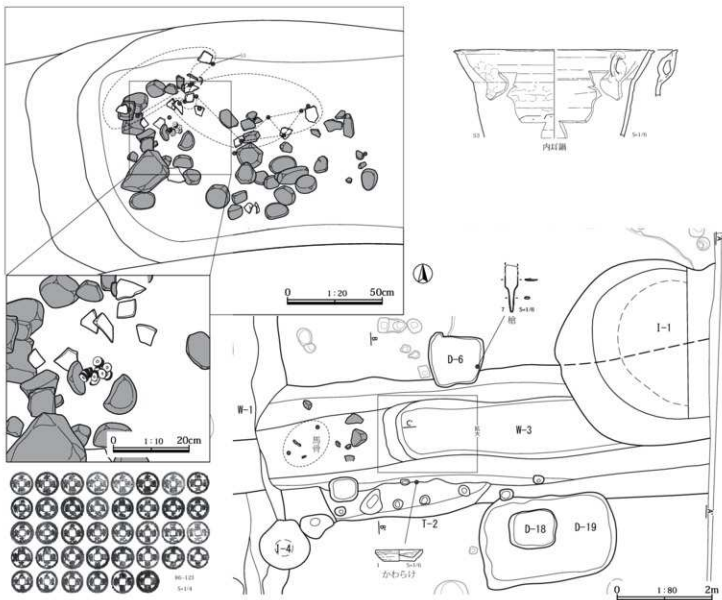
W-5



W-6

断面 0 1:50 1m
 平面 0 1:100 2m

Fig.22 溝跡 (W) その1



- W-3 断面
 1. 上土(礫層状)土 # 1.5cmの層厚(70~75を 20% 含む)
 2. 灰層状土 # 10cmの層厚(70~75を 10% 含む)
 3. 灰層状土 # 5.5cmの層厚(砂質土を 5% 含む)
 4. 灰層状土 # 5.5cmの層厚(砂質土を 5% 含む)
 5. 上土(礫層状)土 # 1.5cmの層厚(砂質土を 20% 含む)
 6. 灰層状土 # 1.5cmの層厚(砂質土を 20% 含む)
 7. 灰層状土 # 5cmの層厚(砂質土を 10% 含む)
 8. 灰層状土 砂質土 20% 含む



- W-3 C-C'
 1. 上土(礫層状)土 # 1.5cmの層厚(70~75を 20% 含む)
 2. 灰層状土 # 10cmの層厚(70~75を 10% 含む)
 3. 灰層状土 # 5.5cmの層厚(砂質土を 5% 含む)
 4. 灰層状土 # 1.5cmの層厚(砂質土を 20% 含む)
 5. 上土(礫層状)土 # 1.5cmの層厚(砂質土を 10% 含む)
 6. 灰層状土 砂質土を 5% 含む
 7. 灰土
 8. 灰層状土 # 5.5cmの層厚(砂質土を 5% 含む)
 9. 灰層状土 # 5.5cmの層厚(砂質土を 5% 含む)
 10. 灰層状土 # 5.5cmの層厚(砂質土を 5% 含む)
 11. 礫層状土 砂質土を 5% 含む

Fig.24 溝跡 (W) その3

Tab.2 壁穴状遺構計測表

() は残存値

遺構名	位置	平面形	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
T-1	B2, B3, C2, C3	方形	3.39	(3.08)	0.24	
T-2	F3, F4	不明	(3.52)	(0.78)	0.30	
T-3	H5, H6, I5, I6	長方形	3.54	2.73	0.42	
T-4	I3, I4	長方形	3.99	1.97	0.88	

Tab.3 土坑計測表

() は残存値

遺構名	位置	平面形	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
D-1	A4	不整形				
D-2	A4, A5	不整形				
D-3	A4	不整形	1.92	0.94	0.71	
D-4	A3	不整形	1.53	1.29	0.76	
D-5	A3, B3	不整形	3.21	2.27	0.80	
D-6	E3, E4	不整形	1.17	1.16	0.40	
D-7	C4	不整形	1.54	1.28	0.40	
D-8	C3	不整形	(2.00)	1.37	0.32	
D-9	C4	長方形	2.02	(0.93)	0.54	
D-10	C3	長方形	1.22	0.82	0.29	
D-11	D5	不整形	1.23	0.58	0.55	
D-12	D4	不整形	1.71	1.57	0.20	
D-13	D4	不整形	(1.99)	(0.77)	0.29	
D-14	D4, E4	長方形	2.44	0.75	0.49	
D-15	B4, B5	不整形	(2.54)	1.44	0.42	
D-16	D3, E3	不整形	2.07	1.91	0.39	
D-17	C4, C5	長方形	(1.82)	1.07	0.26	
D-17b	D3	不整形	1.12	1.03	0.24	
D-18	F4	長方形	1.02	0.81	0.13	D-19の内面
D-19	F4	長方形	2.91	1.83	0.70	

Tab.4 ビット計測表

() は残存値

遺構名	位置	平面形	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
P-1	A4	楕円形	0.26	0.22	0.04	
P-2	A3	不整形	0.24	0.21	0.11	B-1
P-3	A4	不整形	0.41	0.32	0.16	
P-4	A4	不整形	(0.24)	0.24	0.14	
P-5	A4	不整形	0.26	0.21	0.05	地盤か B-1
P-6	A4	楕円形	0.21	0.18	0.21	
P-7	A4, B4	楕円形	0.25	0.16	0.26	
P-8	B4	不整形	0.42	0.33	0.48	B-1
P-9	B4	不整形	0.50	0.44	0.45	B-1
P-10	A4	不整形	0.21	0.18	0.08	
P-11	B4	不整形	0.38	0.33	0.04	
P-12	C4	楕円形	0.35	0.27	0.49	B-3
P-13	B5, C5	不整形	0.54	0.32	0.16	
P-14	C5	楕円形	0.33	0.28	0.42	B-3
P-15	C4	不整形	0.53	0.22	0.34	B-3
P-16	B4, B5	楕円形	0.32	0.21	0.38	B-2
P-17	B5	方形	0.30	0.26	0.71	
P-18	B5	不整形	0.29	0.27	0.09	
P-19	B4	方形	0.19	0.19	0.04	
P-20	B5, C5	不整形	0.23	0.18	0.27	
P-21	C5	不整形	0.40	0.22	0.27	
P-22	C4	不整形	0.24	0.24	0.26	B-3
P-23	C4	長方形	0.26	0.22	0.33	
P-24	C3	不整形	0.27	0.25	0.29	
P-25	C3	長方形	0.26	0.23	0.21	B-5
P-26	C3	長方形	0.25	0.24	0.30	B-4
P-27	A4	不整形	0.17	0.15	0.14	
P-28	A4	不整形	0.36	0.26	0.28	B-1
P-29	A3	不整形	0.32	0.26	0.12	
P-30	A4	楕円形	0.25	0.21	0.06	
P-31	A4	不整形	0.31	0.26	0.03	
P-32	B4	不整形	0.32	0.24	0.37	B-1
P-33	A3, A4	不整形	0.28	0.24	0.24	
P-34	A4	不整形	0.25	0.17	0.11	
P-35	A4	不整形	0.28	0.26	0.06	
P-36	A5	(不整形)	0.32	0.27	0.07	
P-37	A4	不整形	0.30	0.23	0.14	
P-38	A4	楕円形	0.30	0.22	0.30	B-1
P-39	A4	不整形	0.16	0.13	0.06	
P-40	A4	楕円形	0.27	0.26	0.32	
P-41	A3, A4	不整形	(0.26)	0.32	0.10	
P-42	A3, A4, B3, B4	不整形	(0.28)	0.28	0.07	

() は残存値

遺構名	位置	平面形	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
T-5	I3, I4, K3, K4	不整形	2.10	1.73	0.33	
T-6	L3, L4, M3, M4	不整形	3.94	3.22	0.70	
T-7	I4, I5, H4, H5	不整形	3.50	2.63	0.12	

() は残存値

遺構名	位置	平面形	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
D-20	G3, G4	長方形	1.89	1.02	0.97	
D-21	F3, G3	不整形	0.72	(0.56)	0.11	
D-22	H4	長方形	2.14	1.14	0.27	
D-23	H4, I4	長方形	1.33	0.62	0.69	
D-24	I4	長方形	1.18	0.56	0.22	
D-25	I3, I4	長方形	1.40	0.88	0.40	
D-26	I5	不整形	0.93	0.89	1.37	
D-27	G5, G6, H5, H6	長方形	1.08	0.64	0.20	
D-28	A4	長方形	1.77	0.98	0.17	
D-29	K3, L3	長方形	3.84	1.17	0.10	
D-30	N3	長方形	2.81	1.20	0.11	
D-31	M4, N4	長方形	2.18	1.67	0.30	
D-32	I4	不整形	(1.50)	1.34	0.27	
D-33	H5	不整形	3.90	1.55	0.26	
D-34	G4	不整形				
D-35	O5	方形	1.07	1.03	0.26	
D-36	N3, N4, O3, O4	長方形?	1.51	0.95	0.50	

() は残存値

遺構名	位置	平面形	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
P-43	A4, B4	不整形	0.31	0.26	0.06	
P-44	B3	不整形	0.44	0.28	0.17	
P-45	B3, B4	不整形	0.35	0.28	0.08	
P-46	B4	長方形	0.21	0.18	0.38	
P-47	B4	不整形	0.14	0.11	0.02	
P-48	B3	不整形	0.26	0.21	0.21	
P-49	B3	不整形	0.28	0.24	0.38	
P-50	B3	不整形	0.43	0.35	0.59	B-1
P-51	B3	長方形	0.30	0.28	0.40	P-307と切り合い
P-52	B3	不整形	0.21	0.20	0.12	
P-53	C4	方形	0.19	0.17	0.18	
P-54	B4	不整形	0.20	0.19	0.04	
P-55	B4	不整形	0.26	0.25	0.06	
P-56	B4	方形	0.29	0.24	0.48	
P-57	B4	楕円形	0.58	0.53	0.41	B-1
P-58	B4	楕円形	0.37	0.33	0.47	
P-59	B4	方形	0.22	0.19	0.14	
P-60	B4, B5	不整形	0.20	0.13	0.01	
P-61	B5	不整形	0.24	0.23	0.29	
P-62	C4	不整形	0.30	0.19	0.06	
P-63	C5	不整形	0.56	0.38	0.17	B-5
P-64	C5	不整形	0.26	0.17	0.10	
P-65	C5	楕円形	0.38	0.24	0.53	B-5
P-66	C5	不整形	0.29	0.28	0.46	
P-67	C4, C5	方形	0.25	0.22	0.56	B-2
P-68	C4	方形	0.24	0.22	0.34	
P-69	C4	不整形	0.21	0.19	0.08	
P-70	C4	不整形	0.22	0.21	0.37	
P-71	C5	不整形	0.36	0.31	0.47	B-3
P-72	C5	不整形	0.26	0.25	0.27	B-3 B-5
P-73	C5	方形	0.18	0.17	0.10	B-5
P-74	D5	不整形	0.29	0.28	0.32	
P-75	D5	不整形	0.36	0.34	0.57	B-6
P-76	D5	不整形	0.37	0.29	0.60	B-5
P-77	D5	不整形	0.46	0.33	0.38	
P-78	C4, C5, D4, D5	長方形	0.20	0.17	0.28	
P-79	D5	不整形	0.37	0.30	0.50	B-3 B-5
P-80	D5	不整形	0.18	0.14	0.13	
P-81	D5	方形	0.31	0.29	0.32	B-3
P-82	D4	方形	0.25	0.18	0.34	開口部は付帯形
P-83	D4	不整形	0.48	0.40	0.50	柱穴4つ
P-84	D4	方形	0.25	0.20	0.27	

() は残存値

通溝名	位置	平面形	幅員 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
P-85	C4, D4	方形	0.24	0.27	0.30	
P-86	C3	楕円形	0.20	0.22	0.17	
P-87	C3	不整形	0.19	0.11	X	
P-88	C3	不整形	0.16	0.11	X	
P-89	C3	不整形	0.19	0.16	0.10	B-5
P-90	C3	楕円形	0.47	0.39	0.70	B-4
P-91	C3	不整形	0.67	0.52	0.34	
P-92	C3	不整形	0.78	0.43	0.56	柱穴3つ B-2 B-4
P-93	C3	不整形	0.19	0.14	0.14	B-5
P-94	C3	不整形	0.28	0.24	0.32	B-2 B-4 B-5
P-95	2C3	方形	0.25	0.24	0.23	B-5
P-96	C3	不整形	0.24	0.15	0.08	
P-97	C2	楕円形	0.21	0.17	0.24	
P-98	C3, C4	楕円形	0.35	0.31	0.58	B-3
P-99	C3	円形	0.41	0.36	0.54	B-2
P-100	C4	楕円形	0.17	0.12	0.20	
P-101	C3	不整形	0.37	0.34	0.53	B-4
P-102	C3	楕円形	0.17	0.17	0.37	B-4
P-103	C3	楕円形	0.34	0.25	0.07	
P-104	C3	不整形	0.17	0.14	0.16	
P-105	C3	不整形	0.60	0.36		柱穴2つ B-2 B-4
P-106	C3	不整形	0.20	0.16		
P-107	D3	不整形	0.32	0.19	0.31	柱穴2つ B-4
P-108	D3	不整形	0.20	0.19	0.28	
P-109	D3	不整形	0.17	0.15	0.13	方形に北東隅が欠けている
P-110	D2	楕円形	0.18	0.14	0.15	
P-111	D2, D3	楕円形	0.14	0.12	0.15	B-5
P-112	D3	方形	0.20	0.19	0.18	
P-113	D3	不整形	0.26	0.21	0.18	
P-114	D3	不整形	0.20	0.18		
P-115	D4	楕円形	0.33	0.22		
P-116	D4	方形	0.20	0.19		
P-117	D4	不整形	0.38	0.37		断面欠番
P-118	D4	方形	0.22	0.21	0.15	
P-119	D4	円形	0.19	0.13	0.13	
P-120	D3, D4	不整形	0.20	0.20	0.10	
P-121	D3	楕円形	0.45	0.37	0.30	
P-122	D3	不整形	0.86	0.36	0.66	柱穴2つ B-4
P-123	D3	不整形	0.49	0.40	0.34	P124と結合 B-2
P-124	D3	不整形	0.18	0.16	0.23	P123と結合 B-2
P-125	D3	不整形	0.19	0.14		
P-126	D3	不整形	0.61	0.40		柱穴2つ B-5
P-127	D3	不整形	0.61	0.44		基壇に楕円形 北側の B-4
P-128	D3	楕円形	0.43	0.40	0.31	楕円に楕円形 北側の
P-129	D3	不整形	0.85	0.54	0.60	P128, P131切り合い B-4
P-130	D3	方形	0.31	0.29	0.64	B-3
P-131	D3	不整形	0.37	0.26	0.35	P129切り合い+明 B-2 B-4
P-132	D3	不整形	0.35	0.22	0.26	
P-133	D3	不整形	0.22	0.20	0.18	
P-134	D3	方形	0.19	0.15	0.17	P139と結合
P-135	D3	方形	0.24	0.20	0.24	P136と切り合い
P-136	D3	不整形	0.33	0.20	0.37	P135, 137と切り合い
P-137	D3	不整形	0.29	0.26	0.54	P136と切り合い
P-138						欠番
P-139	D2	不整形	0.51	0.29	0.40	P134と結合 B-5
P-140	D2, D3	方形	0.21	0.20	0.23	
P-141	E3	方形	0.22	0.19	0.34	
P-142	D3	不整形	0.49	0.25	0.06	
P-143	D4	不整形	0.30	0.25	0.35	
P-144	D3D4	方形	0.19	0.18	0.15	
P-145	D3	不整形	0.23	0.21	0.15	
P-146	D4	不整形	0.34	0.24	0.35	B-3
P-147	D4	正方形	0.28	0.22	0.31	
P-148	D4	不整形	0.21	0.20	0.11	
P-149	D4	不整形	0.22	0.19	0.07	
P-150	D4	不整形	0.19	0.15		
P-151	D4, E4	不整形	0.22	0.18	0.09	
P-152	E4	方形	0.21	0.19	0.23	B-5
P-153	E4	方形	0.22	0.21	0.19	P175と切り合い B-5
P-154	E3	方形	0.22	0.19	0.50	
P-155	E3	不整形	0.28	0.27	0.36	
P-156	D3	不整形	0.30	0.27	0.37	B-2
P-157	D3	不整形	0.45	0.33	0.42	B-2 B-4
P-158	E4	方形	0.22	0.21	0.48	B-5
P-159	E3, E4	方形	0.29	0.26	0.35	B-5
P-160	E3	方形	0.25	0.19	0.50	B-5
P-161	E3	不整形	0.21	0.21		
P-162	E3	不整形	0.56	0.22	0.36	B-5

() は残存値

通溝名	位置	平面形	幅員 (m)		備考	
			長軸	短軸		
P-163	E3	楕円形	0.29	0.26	0.45	B-5
P-164	E3	楕円形	0.27	0.24	0.50	
P-165	E3	方形	0.22	0.17	0.28	
P-166	E3	不整形	0.80	0.54	0.33	柱穴2つ
P-167	E3	不整形	0.36	0.33	0.54	
P-168	E3	不整形	0.20	0.16	0.14	
P-169	E3	不整形	0.20	0.17	0.13	
P-170	D4	不整形	0.24	0.21	0.37	
P-171	D4	楕円形	0.28	0.25	0.47	B-3
P-172	D4	楕円形	0.19	0.18	0.28	
P-173	D5	不整形	0.22	0.16	0.07	
P-174	D5	方形	0.16	0.16	0.26	
P-175	D4, E4	不整形	0.65	0.32	0.47	P-153と切り合い
P-176	E3	不整形	0.22	0.16	0.18	
P-177	E3	不整形	0.13	0.12	0.13	
P-178	E3	不整形	0.18	0.16	0.13	
P-179	E3	不整形	0.16	0.12	0.09	
P-180	D3	楕円形	0.43	0.10	0.42	
P-181	D3	不整形	0.39	0.22	0.16	柱穴2つ
P-182	D3	不整形	0.16	0.07	0.13	
P-183	D2, D3	楕円形	0.26	0.22	0.35	B-5
P-184	D2, D3	方形	0.20	0.18	0.16	B-5
P-185	D5	不整形	0.17	0.16	0.11	
P-186	D5	不整形	0.19	0.15	0.19	
P-187	D4, D5	不整形	0.57	0.37	0.75	B-2
P-188	D3	楕円形	0.46	0.38	0.31	B-4
P-189	D5	不整形	0.27	0.22	0.57	
P-190	C2	不整形	0.50	0.19	0.09	
P-191	C3	不整形	0.18	0.16	0.18	
P-192	C3	不整形	0.21	0.18	0.25	
P-193	C4	不整形	0.17	0.17	0.08	
P-194	C4	不整形	0.16	0.13	0.02	
P-195	D4	方形	0.20	0.20	0.22	
P-196	D4	不整形	0.21	0.19	0.10	
P-197	D4, E4	不整形	0.36	0.25		
P-198	D5	不整形				P-494に変更
P-199	D5	方形	0.32	0.30	0.66	B-5
P-200	D5	円形	0.28	0.28	0.40	B-5
P-201	C4	不整形	0.44	0.40	0.80	B-4
P-202	C4	楕円形	0.52	0.29	0.48	
P-203	C4, C5	不整形	0.44	0.38	0.52	B-2
P-204	C5	不整形	0.55	0.36	0.57	P-205と切り合い
P-205	C5	不整形	0.50	0.47	0.52	P-204と切り合い
P-206	C5	不整形	0.21	0.18	0.04	
P-207	C4	不整形	0.21	0.18	0.30	
P-208	C5	不整形	0.84	0.67	0.56	B-3
P-209	D4	楕円形	0.49	0.38	0.60	B-4
P-210	D4	楕円形	0.21	0.19	0.20	
P-211	D4	楕円形	0.39	0.35	0.47	B-6
P-212	D3	不整形	0.34	0.25	0.40	
P-213	D4	不整形	0.29	0.21	0.16	
P-214	D4	不整形	0.23	0.19	0.21	
P-215	D4	円形	0.60	0.51	0.82	B-4
P-215b	D3	不整形	0.53	0.28	0.40	
P-216	E3	不整形	0.22	0.18	0.22	
P-217	E3	不整形	0.62	0.32	0.42	柱穴2つ
P-218	D3, D4	不整形	0.52	0.27	0.50	柱穴2つ B-5
P-219	C4	方形	0.26	0.23	0.47	B-5
P-220	B5	楕円形	0.86	0.51	0.66	B-1
P-221	44, A5, B4, B5	方形	0.18	0.16	0.20	
P-222	B4	方形	0.19	0.18	0.20	
P-223	D4	不整形	0.86	0.63	0.65	B-6
P-224	D4	不整形	0.52	0.29	0.23	
P-225	D4	不整形	0.57	0.41	0.40	P-226と切り合い 柱穴2つ
P-226	D4	不整形	0.35	0.35	0.54	P-225と切り合い B-6
P-227	C3, C4	不整形	0.27	0.24	0.42	
P-228	B4	不整形	0.21	0.15	0.09	
P-229	B4	楕円形	0.24	0.22	0.36	
P-230	B4	楕円形	0.40	0.28	0.34	B-1
P-231	B4	不整形	0.59	0.50	0.32	P-232と切り合い B-1
P-232	B4	不整形	0.60	0.53	0.29	P-231と切り合い B-1
P-233	B3, B4	不整形	0.17	0.14	0.04	
P-234	C4	不整形	0.20	0.17	0.25	
P-235	C4, D4	楕円形	0.31	0.25	0.36	
P-236	D4	楕円形	0.34	0.32	0.49	B-2
P-237	D4	不整形	0.21	0.19	0.14	
P-238	D5	不整形	0.19	0.16	0.14	B-5
P-239	D5	不整形	0.17	0.14	0.16	

() は残存値

() は残存値

遺構名	位置	平面形	幅 (m)		備考
			長	深さ	
P-240 D5		不整形	0.21	0.14	0.16
P-241 D5		不整形	0.24	0.19	0.30 B-5
P-242 D3		不整形	0.25	0.17	0.20
P-243 E3		不整形	0.21	0.17	0.30
P-244 E3		不整形	0.17	0.16	0.13
P-245 E3		方形	0.34	0.29	0.53 P246と切り合い B-5
P-246 E3		不整形	0.50	0.27	0.28 P245と切り合い
P-247 E3		不整形	0.42	0.25	0.31
P-248 E3		楕円形	0.15	0.13	0.39
P-249 E3		方形	0.23	0.18	0.23
P-250 E3		不整形	0.37	0.30	0.34 P251と切り合い
P-251 E3		不整形	0.21	0.21	0.34 P250と切り合い
P-252 D4		不整形	0.34	0.25	0.20
P-253 D4		楕円形	0.35	0.25	0.52 B-4
P-254 C4, D4		不整形	0.30	0.25	0.45
P-255 C4, D4		不整形	0.26	0.24	0.15
P-256 C4		方形	0.30	0.22	0.62
P-257 C4		方形	0.18	0.16	0.36
P-258 C4		不整形	0.17	0.16	0.15
P-259 B4, B5		不整形	0.16	0.15	0.07
P-260 C4		不整形	0.26	0.23	0.43
P-261 B3, C3		不整形	0.20	0.15	0.29
P-262 C4		不整形	0.36	0.21	0.32
P-263 C4		不整形	0.18	0.16	0.28
P-264 C4		不整形	0.33	0.26	0.52 B-2
P-265 C3		方形	0.22	0.19	0.29 B-5
P-266 C3		不整形	0.08	0.08	0.14
P-267 D4		不整形	0.32	0.28	0.15
P-268 D4		方形	0.20	0.17	0.28
P-269 D4		不整形	0.20	0.12	0.04
P-270 H4		方形	0.27	0.23	0.29
P-271 H4		不整形	0.40	0.31	0.16
P-272 H4		円形	0.34	0.32	0.13
P-273 H4		不整形	0.37	0.29	0.16
P-274 H4		不整形	0.24	0.22	0.20
P-275 H3		不整形	0.22	0.17	0.17
P-276 H3		不整形	0.48	0.41	0.37 B-7
P-277 H3		不整形	0.50	0.31	0.20
P-278 H4		方形	0.26	0.24	0.30 柱穴2つ
P-279 I3, I4		楕円形	0.29	0.25	0.17
P-280 H4		方形	0.33	0.28	0.25
P-281 H4, I4		不整形	0.39	0.35	0.16
P-282 I5		不整形	0.29	0.25	0.08 残い
P-283 I5		不整形	0.27	0.23	0.08 残い
P-284 I5		不整形	0.27	0.24	0.16
P-285 I4		楕円形	0.28	0.26	0.43
P-286 I4		不整形	0.30	0.21	0.10
P-287 I4, J4		段方形	0.53	0.43	0.23
P-288 I4, J5		方形	0.34	0.30	0.13 残い
P-289 I4		不整形	0.59	0.28	0.10 残い
P-290 I4, J4		方形	0.46	0.42	0.19
P-291 I4		不整形	0.41	0.36	0.09 残い
P-292 I4		不整形	0.23	0.19	0.13 破石
P-293 I4, J4		不整形	0.56	0.56	0.22
P-294 I4		不整形	0.36	0.32	0.31 B-7
P-295 I4		不整形	0.22	0.22	0.21
P-296 I4		不整形	0.52	0.43	0.21
P-297 I5		不整形	0.38	0.30	0.14
P-298 I4		楕円形	0.45	0.44	0.10
P-299 I4, J5		方形	0.27	0.24	0.18
P-300 I5		不整形	0.32	0.28	0.12 残い
P-300B E3		不整形	0.31	0.25	0.47
P-301 I5		不整形	0.49	0.38	0.18 W?と切り合い
P-302 I5		円形	0.35	0.33	0.18
P-303 I5		不整形	0.54	0.52	0.10
P-304 I5		不整形	0.30	0.23	0.08
P-305 B4		不整形	0.22	0.17	0.44 B-2
P-306 B4		方形	0.28	0.20	0.20 B-2
P-307 B3		方形	0.25	0.23	0.30 P31と切り合い
P-308 A4		段方形	0.16	0.11	
P-308B E3		不整形	0.87	0.81	0.44
P-309 D4		方形	0.27	0.23	0.26
P-309B A4		不整形	0.23	0.18	0.46
P-310 A5		不整形	1.67	0.74	1.47 柱穴の東縁はさらに深い柱穴B-1
P-311 K3		不整形	0.33	0.29	0.31
P-312 K3		不整形	0.38	0.33	0.15 残い
P-313 K3		不整形	0.32	0.17	0.18
P-314 K3		不整形	0.38	0.33	0.14

遺構名	位置	平面形	幅 (m)		備考
			長	深さ	
P-315 K3, K4		不整形	0.57	0.41	0.16 残い
P-316 K4		不整形	0.24	0.24	0.21
P-317 K4		円形	0.24	0.22	0.27
P-318		(欠番)			欠番
P-319 K4		不整形	0.54	0.44	0.14
P-320 K4		不整形	0.55	0.46	0.24
P-321 J5, K5		不整形	0.53	0.48	0.23
P-322 K4		不整形	0.58	0.51	0.12
P-323 J5, K5		不整形	0.57	0.41	
P-324 K5		不整形	0.29	0.26	0.14
P-325 L4		楕円方形	0.54	0.28	0.50
P-326 L5		不整形			欠番 残いため図面化できません
P-327 L5		方形	0.13	0.12	
P-328 K5		不整形	0.34	0.27	0.09 残い
P-329 K5		不整形	0.48	0.26	0.16 残い
P-330 K5		不整形	0.72	0.61	0.07 残い
P-331 L5		不整形	0.24	0.20	
P-332 L5		方形	0.22	0.16	
P-333 L5		不整形	0.23	0.16	残い
P-334 F3, F4		方形	0.19	0.17	0.17
P-335 G3		不整形	0.53	0.33	0.37
P-336 G3		不整形	0.36	0.28	0.27
P-337 F4, G4		不整形	0.52	0.44	0.19
P-338 H5		段方形	0.48	0.37	0.33
P-339 H5		不整形	0.32	0.28	0.19
P-340 H5		方形	0.28	0.32	0.51
P-341 H5, 跡		不整形	0.49	0.39	0.37 五角形
P-342 H4		不整形	0.55	0.37	0.16 残い
P-343 G3		不整形	0.24	0.20	0.26 残い
P-344 I4, I5, J4, J5		円形	0.31	0.29	0.40 B-7
P-345 J3		円形	0.37	0.34	0.27 B-7
P-346 J3		方形	0.21	0.19	0.27
P-347 L5		不整形	0.42	0.36	0.27
P-348 L5		不整形			欠番 残いため図面化できません
P-349 L5		不整形	0.50	0.40	0.33
P-350 M5		不整形	0.29	0.23	0.15
P-351 M5		不整形	0.35	0.31	0.05 残い
P-352 M5		不整形	0.35	0.34	0.11 残い
P-353 M5		不整形	0.32	0.27	0.10 残い
P-354 M5		円形	0.23	0.22	0.14
P-355 M5		円形	0.41	0.24	0.21
P-356 M5		楕円形	0.27	0.24	0.21
P-357 M5		不整形	0.53	0.32	0.06
P-358 M5		不整形	0.27	0.26	0.41
P-359 M4, M5		楕円形	0.27	0.20	0.24
P-360 M4		円形	0.35	0.34	0.14
P-361 M4, M5		不整形	0.30	0.29	0.08
P-362 M5		不整形	0.27	0.20	0.08
P-363 M5, N5		不整形	0.30	0.29	0.05
P-364 M4		不整形	0.23	0.21	0.08
P-365 N4		円形	0.52	0.50	0.17
P-366 N4		円形	0.36	0.33	0.53
P-367 N4		不整形	0.74	0.53	0.37 柱穴2つ
P-368 N4		不整形	0.33	0.24	0.36 P369と切り合い
P-369 N4		不整形	0.35	0.29	0.39 P368と切り合い
P-370 N4		方形	0.25	0.22	0.27
P-371 N4		方形	0.16	0.15	0.15
P-372 N4		不整形	0.38	0.36	0.35
P-373 N4		円形	0.30	0.24	0.25
P-374 N4		方形	0.23	0.22	0.16
P-375 N4		方形	0.25	0.24	0.13
P-376 N4		不整形	0.35	0.35	0.37
P-377 N4		不整形	0.20	0.30	0.04
P-378 N4		不整形	0.28	0.21	0.24
P-379 O4, O5		楕円方形	0.26	0.25	0.11
P-380 O4, O5		段方形	0.28	0.21	
P-381 L5		不整形	0.32	0.25	0.11
P-382 L5		不整形	0.36	0.25	0.17
P-383 L5		方形	0.31	0.28	0.48
P-384 L5		不整形	0.59	0.28	0.13 残い
P-385 L5		不整形	0.34	0.18	0.21
P-386 L5		不整形	0.33	0.22	0.11 残い
P-387 L5, L6		不整形	0.32	0.22	0.14
P-388 L5		不整形	0.36	0.28	0.15
P-389 J4		円形	0.32	0.30	0.44 B-7
P-390 B5		不整形	0.40	0.38	0.10
P-391 B5		円形	0.39	0.35	0.31
P-392 C4, H4		楕円方形	0.38	0.37	0.29

() は既存

() は既存

道標名	位置	平面形	幅員 (m)			備考
			員幅	距離	長さ	
P-393	14	不整形	0.38	0.38	0.21	
P-394	H4, 14	方形	0.28	0.27	0.25	
P-395	14	不整形	0.46	0.38	0.63	
P-396	H, 15	円形	0.26	0.25	0.40	
P-397	15	不整形	0.21	0.17	0.19	既
P-398	14	不整形	0.47	0.36	0.20	既
P-399	14	不整形	0.30	0.30	0.17	既
P-400	14	不整形	0.54	0.34	0.26	既
P-401	13	不整形	0.43	0.41	0.12	
P-402	13	不整形	0.44	0.44	0.12	
P-403	K3	不整形	0.25	0.21	0.23	
P-404	K5	円形	0.34	0.29	0.12	既
P-405	14	不整形	0.37	0.35	0.29	
P-406	H6	不整形	0.51	0.43	0.32	
P-407	G4	不整形	0.40	0.36	0.32	
P-408	R4	不整形	0.24	0.22	0.24	
P-409	K5	不整形	0.52	0.46	0.22	
P-410	K5	不整形	0.59	0.49	0.19	
P-411	1.5	不整形	0.38	0.33	0.40	
P-412	1.6	不整形	0.27	0.22	0.27	
P-413	1.5	不整形	0.39	0.25	0.15	
P-414	1.5	不整形	0.28	0.23	0.06	
P-415	M5	扇丸方形	0.36	0.32	0.37	
P-416	M6	不整形	0.25	0.22	0.16	
P-417	M6	不整形	0.39	0.34	0.19	
P-418	M6	方形	0.34	0.29	0.15	
P-419	N8	不整形	0.36	0.27	0.18	
P-420	N5	不整形	0.35	0.25	0.18	
P-421	N5	不整形	0.35	0.33	0.25	
P-422	N4	不整形	0.35	0.31	0.46	P423, 424と切り合
P-423	N4	不整形	0.42	0.37	0.47	P422, 424と切り合
P-424	N4	不整形	0.39	0.31	0.60	P422, 423と切り合
P-425	N4	不整形	0.54	0.34	0.26	
P-426	M4	不整形	0.28	0.17	0.29	
P-427	M4	円形	0.21	0.19	0.52	
P-428	M3, M4	長方形	0.31	0.31	0.50	
P-429	M4	方形	0.27	0.27	0.30	
P-430	M4	円形	0.23	0.22	0.33	
P-431	M4	円形	0.29	0.25	0.36	
P-432	M4	扇丸方形	0.22	0.19	0.21	
P-433	M4	不整形	0.38	0.37	0.20	
P-434	N4	不整形	0.37	0.21		
P-435	N4, O4	方形	0.27	0.26	0.16	
P-436	O4	不整形	0.56	0.43	0.24	
P-437	N4	方形	0.29	0.29	0.18	
P-438	N4	方形	0.15	0.15	0.14	
P-439	O4	不整形	0.16	0.12	0.17	
P-440	O4	不整形	0.24	0.14	0.11	
P-441	O4	不整形	0.49	0.39	0.18	
P-442	O4	方形	0.19	0.19	0.18	
P-443	O4	不整形	0.68	0.56	0.23	
P-444	O5	扇丸方形	0.27	0.26	0.23	
P-445	O5	扇丸方形	0.37	0.31	0.33	
P-446	O5	不整形	0.58	0.41	0.14	
P-447	O5	不整形	0.34	0.28	0.09	
P-448	O5	不整形	0.36	0.28	0.23	
P-449	M4	不整形	0.29	0.29	0.21	
P-450	L4	不整形	0.39	0.32	0.26	
P-451	14	方形	0.25	0.22	0.30	
P-452	14	方形	0.22	0.20	0.33	
P-453	13	方形	0.20	0.19	0.20	B7
P-454	14	方形	0.27	0.27	0.21	
P-455	13, 13	不整形	0.47	0.38	0.27	
P-456	13, 13	不整形	0.29	0.25	0.23	B7
P-457	H4	不整形	0.40	0.38	0.31	B7
P-458	H4, 14	方形	0.23	0.23	0.26	
P-459	15	方形	0.26	0.24	0.26	
P-460	K5, 1.5	不整形	0.30	0.29	0.17	
P-461	N5	方形	0.34	0.32	0.34	
P-462	O5	方形	0.20	0.20		
P-463	M4	方形	0.21	0.20	0.16	
P-464	O4	不整形	0.37	0.33	0.17	
P-465	M4	方形	0.34	0.33	0.30	
P-466a	L4	不整形	0.40	0.40	0.24	
P-466b	L4	不整形	0.37	0.32	0.17	
P-467	L4	不整形	0.36	0.38	0.21	
P-468	L4	不整形	0.41	0.37	0.43	
P-469	L3, L4	方形	0.39	0.39	0.37	

道標名	位置	平面形	幅員 (m)			備考
			員幅	距離	長さ	
P-470	O4	方形	0.19	0.19	0.20	
P-471	O4	不整形	0.45	0.32	0.13	
P-472	O4	不整形	0.28	0.25	0.09	
P-473	O4	不整形	0.22	0.21	0.06	
P-474	M6	不整形	0.35	0.31	0.25	
P-475	13	不整形	0.39	0.35	0.43	B7
P-476	H3	不整形	0.43	0.28	0.40	
P-477	H3	不整形	0.49	0.32	0.28	
P-478	H3	不整形	0.25	0.23	0.21	
P-479	H3	不整形	0.24	0.23	0.20	
P-480	C3	不整形	0.25	0.22	0.18	
P-481	C3	不整形	0.29	0.26	0.24	
P-482	H3, H4	方形	0.25	0.23	0.39	
P-483	H4	方形	0.27	0.25	0.36	
P-484	H5	不整形	0.52	0.45	0.36	
P-485	N5	方形	0.25	0.25	0.10	
P-486	O5	不整形	0.24	0.18	0.14	
P-487	H6	不整形	0.79	0.60	0.20	
P-488	B4, C4	方形	0.30	0.29	0.15	
P-489	C4	方形	0.20	0.16	0.13	
P-490	C5	方形	0.21	0.18	0.17	
P-491	C5	方形	0.31	0.28	0.10	
P-492	C5	方形	0.21	0.19	0.32	
P-493	O5	不整形	0.31	0.24	0.11	
P-494	O5	不整形	0.43	0.28	0.38	B6
P-495	B5	不整形	0.42	0.17	0.31	
P-496	C5	方形	0.22	0.22		
P-497	C5	不整形	0.20	0.29	0.32	
P-498	O5	不整形	0.22	0.31	0.20	
P-499	O5	不整形	0.28	0.19	0.10	
P-500	O5	方形	0.26	0.23	0.35	
P-501	O5, E5	不整形	0.10	0.26	0.39	
P-502	E4	楕円形	0.24	0.18	0.24	
P-503	E4	不整形	0.59	0.43	0.14	
P-504	O3	不整形	0.25	0.19	0.26	
P-505	O2	不整形	0.44	0.38	0.57	B4
P-506	A4	楕円形	0.19	0.16	0.22	
P-507	B5	不整形	0.31	0.25	0.12	

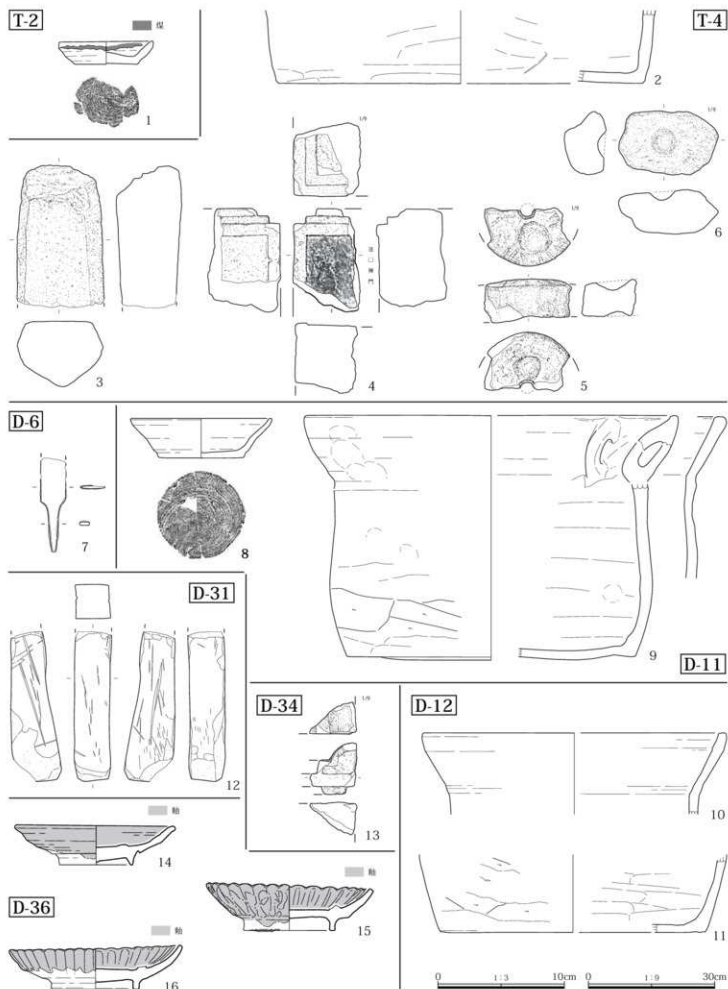


Fig.25 出土遺物 (1)

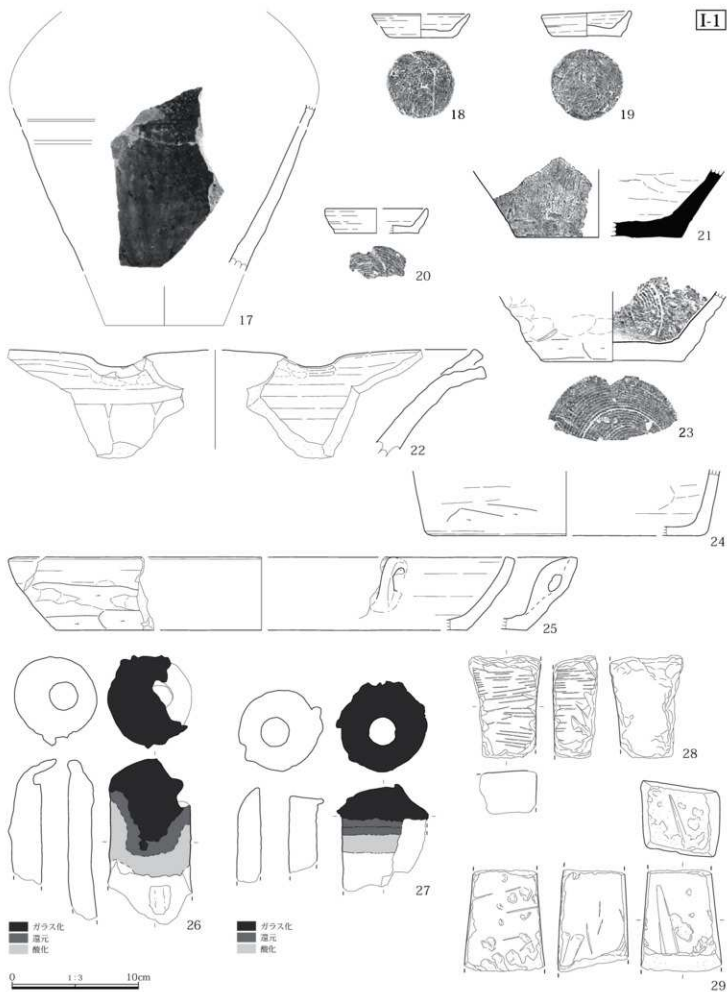


Fig.26 出土遺物(2)

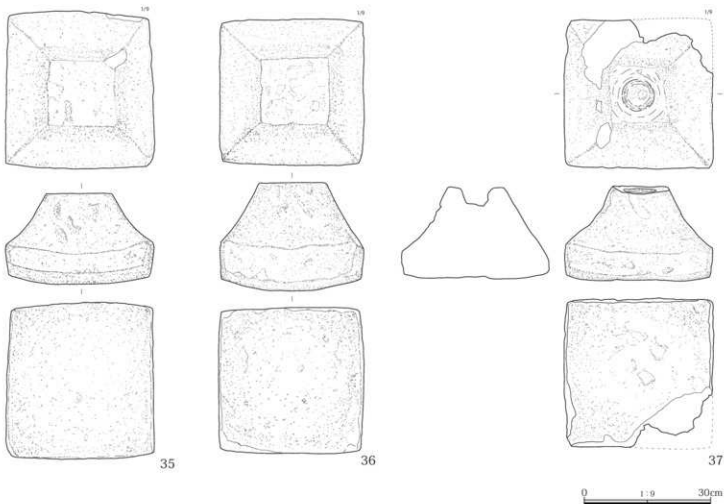
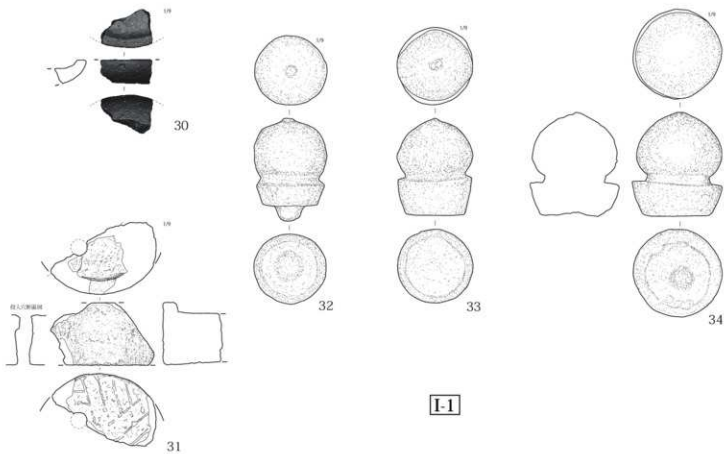
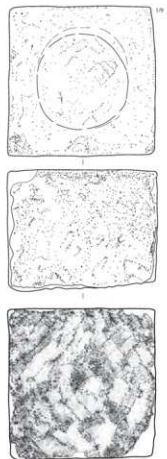
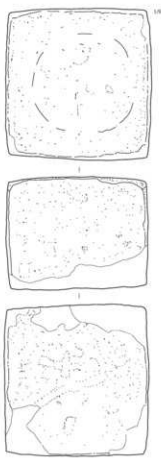
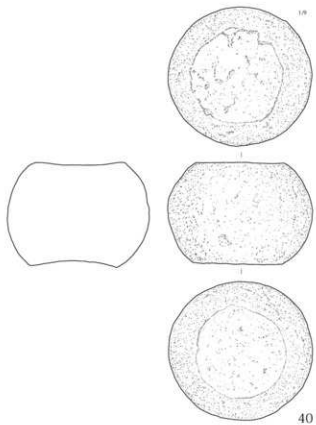
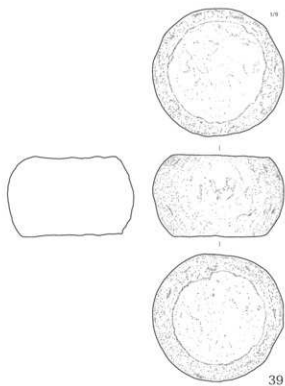
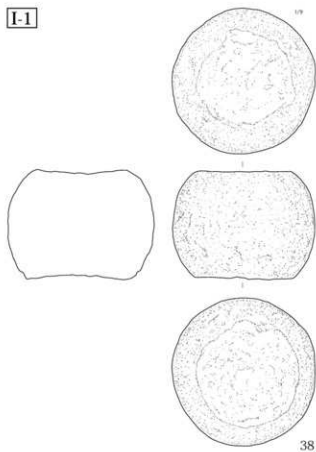


Fig.27 出土遺物 (3)

I-1



0 1:9 30cm

Fig.28 出土遺物(4)

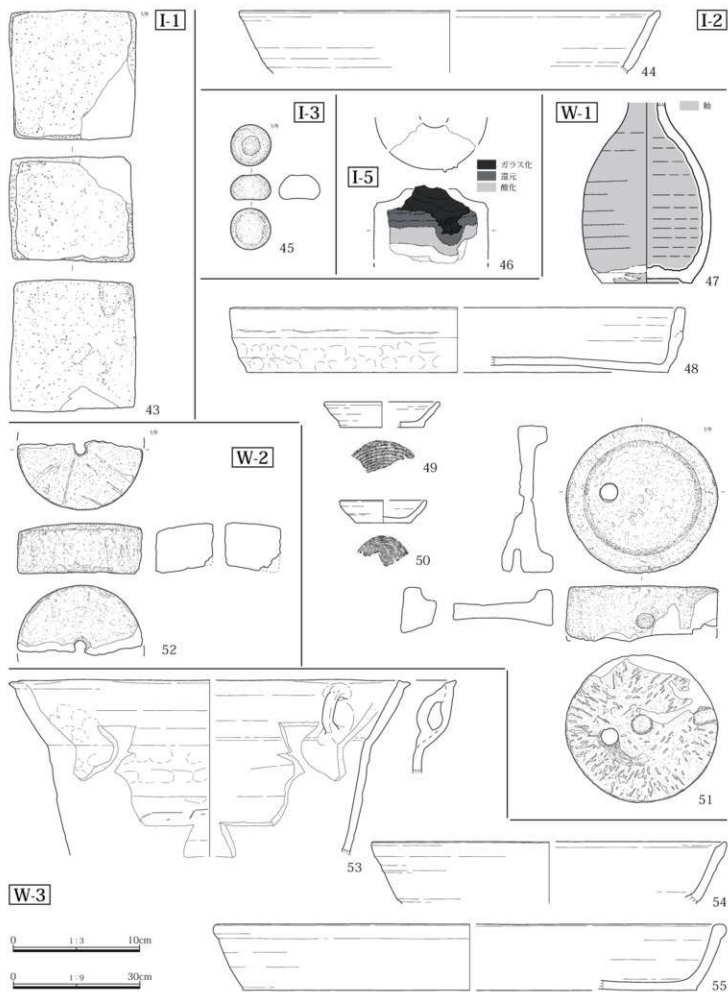


Fig.29 出土遺物 (5)

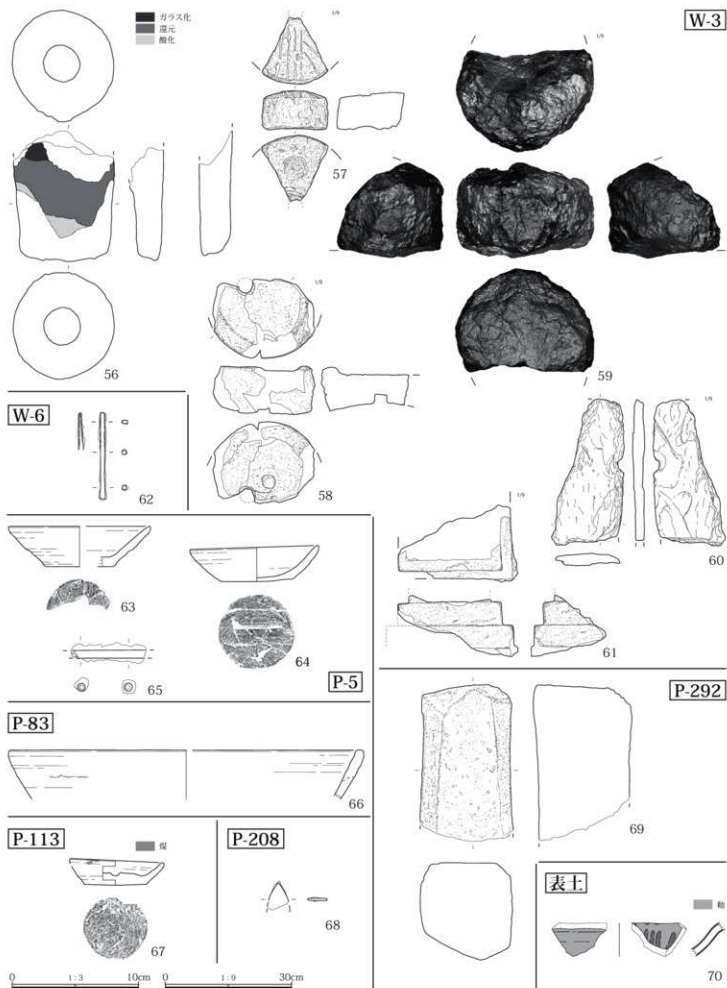


Fig.30 出土遺物 (6)

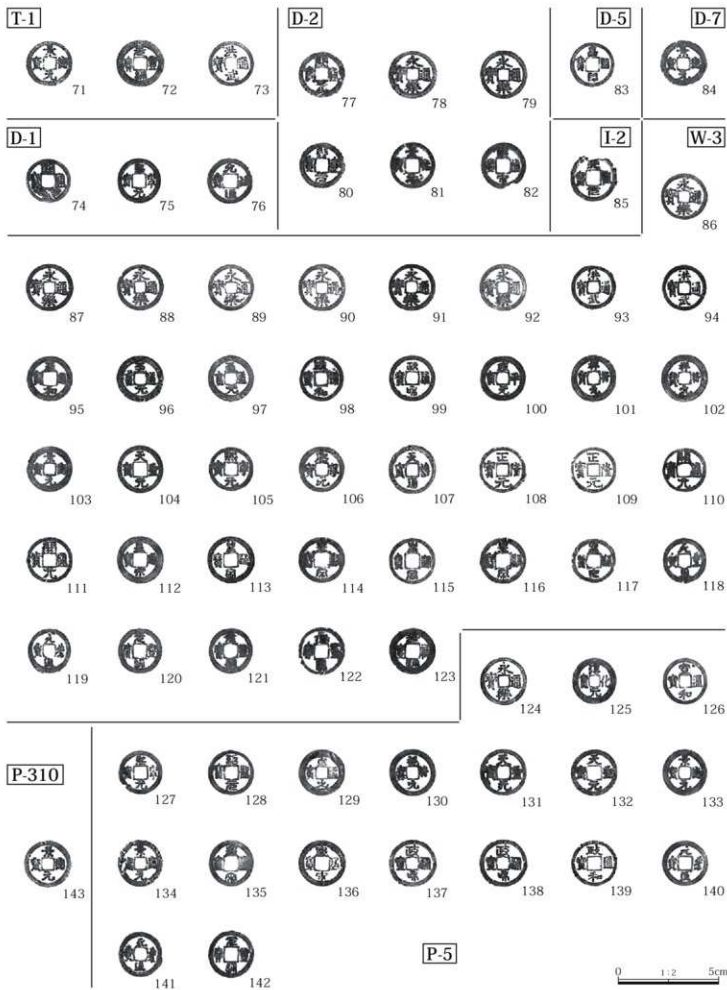


Fig.31 出土遺物 (7)

Tab.5 出土遺物観察表（土器・陶磁器）

※（ ）は現存値、＜ ＞は推定値

No.	遺構	材質	遺物	部位	長さ (cm)	口径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形状	色調	取手	調査	備考
1	1-2	赤瓦分付	小皿	口縁・底面1/2	7.4	1.0	5.0	-	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母	外：白土質型 底面黒胎赤胎 内：白土質型	内面・底面に、厚さ約 15c
2	1-4	赤瓦分付	鉢	口縁・底面破片	-	15.0	9.0	破損	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母	外：白土分付 ナマ 内：白土分付 ナマ	内面・底面に、15～16c
3	11-11	赤瓦分付	小皿	口縁・底面1/2	13.2	3.0	6.8	-	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母・小磯	外：白土質型 底面黒胎赤胎 (古調製) 内：白土質型	上縁・底面に、厚さ約 15c
9	10-11	瓦質土層	内皿鉢	口縁・底面1/4	29.2	19.4	23.0	-	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母・小磯	外：白土分付 ナマ 内：白土分付 ナマ	上縁・底面に、厚さ約 15c
10	10-12	瓦質土層	鉢	口縁・底面破片	<10.0>	6.0	-	破損	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母・小磯	外：白土分付 内：白土分付	15～16c No.66に付・破損中
11	10-12	瓦質土層	鉢	口縁・底面破片	<10.0>	6.0	-	破損	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母・小磯	外：白土分付 ナマ 内：白土分付 ナマ	15～16c
14	10-36	陶磁	皿	口縁完整	12.6	3.2	5.8	-	黒胎	黒胎	横石・長石・雲母	外：白土質型 黒胎飾物 内：白土質型 黒胎飾物	口縁完整
15	10-36	陶磁	茶碗	口縁・底面完整	12.8	5.8	3.2	-	黒胎	黒胎	横石・長石	外：白土質型 黒胎飾物 内：白土質型 黒胎飾物	口縁1～5割
16	10-36	陶磁	茶碗	口縁完整	13.4	5.5	3.2	-	黒胎	黒胎	横石・長石	外：白土質型 黒胎飾物 内：白土質型 黒胎飾物	口縁1～5割
17	11	陶磁	菓子	胴部破片	-	13.23	-	-	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母	外：白土質型 黒胎 内：白土質型 黒胎	口縁部 胴部との接合部より欠
18	11	赤瓦分付	小皿	口縁・底面9/10	7.6	1.0	5.0	-	白土質型	白土質型	横石・長石・角石・雲母・角礫	外：白土質型 底面黒胎赤胎 (古調製) 内：白土質型	15c
19	11	赤瓦分付	小皿	口縁・底面7/8	6.6	2.1	5.3	-	白土質型	白土質型	横石・長石・角石・雲母	外：白土質型 底面黒胎赤胎 (古調製) 内：白土質型	口縁部7～14c
20	11	赤瓦分付	小皿	口縁・底面1/4	<8.0>	2.0	<4.6>	-	白土質型	白土質型	横石・長石・角石・雲母	外：白土質型 底面黒胎赤胎 内：白土質型	15c
21	11	瓦質土層	鉢	口縁・底面破片	-	13.6	13.2	-	黒胎	黒胎	横石・角石	外：白土分付 ナマ 内：白土分付 ナマ	15c
22	11	瓦質土層	鉢	口縁・底面破片	-	13.6	-	破損	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母	外：白土分付 ナマ 内：白土分付 ナマ	15c
23	11	瓦質土層	鉢	口縁・底面破片	-	15.0	<10.8>	-	黒胎	黒胎	横石・角石・角礫	外：白土質型 ナマ 底面下層付ナマ 底面黒胎赤胎 内：白土質型 ナマ	15c
24	11	瓦質土層	内皿鉢	口縁・底面破片	-	15.20	<20.0>	-	黒胎	黒胎	横石・長石・角石	外：白土分付 ナマ 内：白土分付 ナマ	口縁部1割程度 内面・底面に、厚さ約 15～16c
25	11	瓦質土層	内皿鉢	口縁・底面破片	<10.0>	5.8	<12.6>	-	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母・小磯	外：白土分付 ナマ 内：白土分付 ナマ	上縁・底面に、厚さ約 15c
26	11	土製品	皿	口縁	長さ 13.1 口径 6.7 厚さ 5.3	-	-	-	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母・小磯	取手は口縁から約5割程度で脱落した。先頭部は断面が若干欠	
27	11	土製品	皿	口縁	長さ 13.1 口径 6.7 厚さ 5.3	-	-	-	白土質型	白土質型	横石・長石・角石・雲母・小磯	取手は口縁から約5割程度で脱落した。先頭部は断面が若干欠	
42	12	瓦質土層	鉢	口縁・底面破片	<12.5>	10.0	-	破損	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母・小磯	外：白土分付 内：白土分付 ナマ	15c
46	15	土製品	皿	口縁	長さ 13.1 口径 6.7 厚さ 5.3	-	-	-	黒胎	黒胎	横石・角石・小磯	取手は口縁部	取手は口縁部
47	16-1	陶磁	瓶	口縁・底面1/2	-	14.3	7.1	-	黒胎	黒胎	横石・角石	外：白土質型 黒胎ナマ 内：白土質型 黒胎	口縁部は口縁部
48	16-1	瓦質土層	磁瓶	口縁・底面1/4	34.8	5.2	32.4	-	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母	外：白土分付 口縁部下層付黒胎赤胎 内：白土分付 ナマ	口縁部
49	16-1	赤瓦分付	小皿	口縁・底面1/5	<10.0>	2.0	4.4	-	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母	外：白土質型 底面黒胎赤胎 (古調製) 内：白土質型	15c
50	16-1	赤瓦分付	小皿	口縁・底面1/3	6.7	1.8	4.4	-	黒胎	黒胎	横石・角石	外：白土質型 底面黒胎赤胎 (古調製) 内：白土質型	口縁部1割程度 口縁部・底面に、厚さ約 15c
53	16-3	瓦質土層	内皿鉢	口縁・底面1/8	<10.0>	11.30	-	破損	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母	外：白土分付 ナマ 内：白土分付 ナマ	上縁・底面に、厚さ約 15c
54	16-3	瓦質土層	鉢	口縁・底面破片	<10.0>	14.8	-	破損	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母・角礫・角礫質	外：白土分付 ナマ 内：白土分付 ナマ	口縁部
55	16-3	瓦質土層	磁瓶	口縁・底面破片	<16.0>	5.3	<10.0>	-	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母・石雲母	外：白土分付 ナマ 内：白土分付 ナマ	口縁部
56	16-3	土製品	皿	口縁	長さ 13.1 口径 6.7 厚さ 5.3	-	-	-	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母・小磯	取手は口縁部	取手は口縁部
63	16-3	赤瓦分付	小皿	口縁・底面1/2	11.20	3.2	5.8	-	白土質型	白土質型	横石・長石・角石・雲母	外：白土質型 底面黒胎赤胎 (古調製) 内：白土質型	口縁部との接合部より、厚さ約 15c前後
64	16-3	赤瓦分付	皿	口縁・底面9/10	11.0	2.9	5.7	-	白土質型	白土質型	横石・長石・角石・雲母	外：白土質型 底面黒胎赤胎 (古調製) 内：白土質型	口縁部との接合部より、厚さ約 15c前後
66	16-3	瓦質土層	内皿鉢	口縁・底面破片	<10.0>	13.16	-	破損	黒胎	黒胎	横石・長石・角石・雲母・小磯	外：白土分付 内：白土分付 ナマ	上縁・底面に、厚さ約 15c
67	16-11	土製品	茶碗	口縁・底面3/4	7.4	2.1	4.9	-	白土質型	白土質型	横石・長石・角石・雲母	外：白土質型 底面黒胎赤胎 (古調製) 内：白土質型	口縁部との接合部より、厚さ約 15c前後
70	16-1	瓦質土層	茶碗	口縁・底面破片	-	12.7	-	破損	黒胎	黒胎	横石・角石	外：白土質型 黒胎 内：白土質型 黒胎	口縁部との接合部より、厚さ約 15c

Tab.6 出土遺物観察表（金属器）

No.	遺構	材質	遺物	部位	長さ (cm)	口径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形状	備考
1	10-6	鉄	小皿	口縁	17.6	2.1	0.9	11.0	鉄	
2	10-6	鉄	小皿	口縁下層	6.8	0.4	0.4	4.0	鉄	

No.	遺構	材質	遺物	部位	長さ (cm)	口径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形状	備考
45	10-6	鉄	小皿	口縁	17.6	2.1	0.6	11.0	鉄	口縁部
46	10-6	鉄	小皿	口縁下層	6.8	0.4	0.4	4.0	鉄	口縁部

Tab.7 出土遺物観察表（銭貨）

No.	遺構	材質	遺物	部位	長さ (mm)	口径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	形状	備考
71	1-1	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	3.0	文様 (1094)	
72	1-1	銅	銅貨(文様)	背面	24.6	0.6	0.1	4.0	文様 (1094)	
73	1-1	銅	銅貨(文様)	背面	24.4	0.6	0.1	3.0	文様 (1094)	
74	1-1	銅	銅貨(文様)	背面	24.4	0.6	0.1	3.0	文様 (1021)	
75	1-1	銅	銅貨(文様)	背面	24.4	0.6	0.1	3.0	文様 (1068)	
76	1-1	銅	銅貨(文様)	背面	24.4	0.7	0.1	3.0	文様 (1094)	
77	1-2	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	3.0	文様 (1021)	
78	1-2	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	3.0	文様 (1094)	
79	1-2	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	3.0	文様 (1111)	
80	1-2	銅	銅貨(文様)	背面	24.4	0.6	0.1	3.0	文様 (1068)	銅貨
81	1-2	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	4.0	文様 (1094)	
82	1-2	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.7	0.1	3.0	文様 (1094)	
83	1-3	銅	銅貨(文様)	背面	24.4	0.6	0.1	3.0	文様 (1094)	
84	1-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	3.0	文様 (1111)	
85	1-2	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.7	0.1	3.0	文様 (1021)	銅貨
86	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	4.0	文様 (1411)	
87	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.5	0.1	4.0	文様 (1411)	
88	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.5	0.1	4.0	文様 (1411)	
89	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.5	0.1	4.0	文様 (1411)	
90	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	4.0	文様 (1411)	

No.	遺構	材質	遺物	部位	長さ (mm)	口径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	形状	備考
91	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	3.0	文様 (1411)	
92	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	3.0	文様 (1411)	
93	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	24.4	0.6	0.1	4.0	文様 (1368)	
94	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	24.4	0.5	0.1	4.0	文様 (1368)	
95	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.7	0.1	3.0	文様 (1094)	
96	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	4.0	文様 (099)	
97	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	3.0	文様 (099)	
98	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	24.4	0.6	0.1	3.0	文様 (1094)	
99	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.7	0.1	4.0	文様 (1021)	
100	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	4.0	文様 (098)	
101	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	3.0	文様 (1094)	
102	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	4.0	文様 (1094)	
103	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	3.0	文様 (1094)	
104	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.7	0.1	4.0	文様 (1021)	
105	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	24.4	0.6	0.1	3.0	文様 (1068)	
106	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	24.4	0.6	0.1	4.0	文様 (1068)	
107	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	26.0	0.6	0.1	3.0	文様 (1017)	
108	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.6	0.1	3.0	文様 (1140)	
109	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	25.0	0.5	0.1	4.0	文様 (1140)	
110	10-3	銅	銅貨(文様)	背面	24.4	0.6	0.1	3.0	文様 (021)	

Tab.8 出土遺物観察表（銭貨）

No.	遺種	材質	形態	部位	径 (mm)	孔径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
111	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.0	0.1	3.0	形 (924)
112	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.7	0.1	3.0	北字 (1039) 裏面体
113	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.7	0.1	4.0	北字 (1039) 裏面体
114	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.7	0.1	3.0	北字 (1039) 裏面体
115	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.7	0.1	3.0	北字 (1039) 裏面体
116	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.4	0.7	0.1	3.0	北字 (1039) 裏面体
117	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.4	0.7	0.1	3.0	北字 (1039) 裏面体
118	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.4	0.6	0.1	3.0	北字 (1078) 行面体
119	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.4	0.6	0.1	3.0	北字 (1078) 行面体
120	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.4	0.6	0.1	4.0	北字 (1078) 裏面体
121	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.4	0.7	0.1	3.0	北字 (1078) 裏面体
122	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.6	0.1	3.0	北字 (1078) 裏面体
123	W3	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.7	0.1	3.0	北字 (1086) 裏面体
124	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.5	0.1	4.0	北字 (1411)
125	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.4	0.6	0.1	4.0	北字 (1090)
126	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.4	0.6	0.1	4.0	北字 (1119)
127	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.4	0.6	0.1	4.0	北字 (1098)

※ () は現存値、< > は鑑定値

No.	遺種	材質	形態	部位	径 (mm)	孔径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
128	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.7	0.1	4.0	北字 (1094)
129	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.5	0.1	4.0	北字 (1095)
130	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.6	0.1	3.0	北字 (1096)
131	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.6	0.1	3.0	北字 (1023)
132	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.7	0.1	4.0	北字 (1023)
133	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.6	0.1	4.0	北字 (1094)
134	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.6	0.1	3.0	北字 (1094)
135	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.7	0.1	3.0	北字 (1039) 裏面体
136	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.7	0.1	4.0	北字 (1039) 裏面体
137	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.6	0.1	4.0	北字 (1111) 裏面体
138	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.6	0.7	0.1	4.0	北字 (1078) 裏面体
139	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.7	0.1	3.0	北字 (1111) 裏面体
140	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.6	0.1	4.0	北字 (1078) 行面体
141	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.4	0.6	0.1	3.0	北字 (1078) 行面体
142	P5	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.7	0.1	3.0	北字 (1078) 裏面体
143	P310	銅	鍍金遺銭	背面	2.5	0.6	0.1	4.0	北字 (1111)

Tab.9 出土遺物観察表（石製品）

No.	遺種	形態	部位	径 (mm)	高さ (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備考
3	T4	板	環状石版	114.2	6.9	0.7	37.0	黒色(炭石)	
4	T4	環状石版	蓋部	幅	高さ	厚さ	73.3	黒色(炭石)	板部は厚さ1mm(厚)
5	T4	石印	字印	幅	高さ	厚さ	349.0	黒色(炭石)	上下は削り出し
6	T4	蓋状穴石	蓋部	幅	高さ	厚さ	359.0	黒色(炭石)	上下は削り出し 中心に蓋状穴あり 穴より多少厚手
12	D-1	板石	法廷用印	112.0	3.0	4.0	19.0	黒色(炭石)	
13	D-3	蓋状石印	蓋部	幅	高さ	厚さ	68.5	黒色(炭石)	
28	L1	板石	石印	径	厚さ	厚さ	27.0	砂岩	
29	L1	板石	石印	径	厚さ	厚さ	39.0	砂岩	
30	L1	石鉢	鉢部	径	高さ	厚さ	49.0	砂岩	
31	L1	石印	字印	幅	高さ	厚さ	543.5	黒色(炭石)	蓋部は3mmの段あり
32	L1	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	540.0	褐色(炭石)	
33	L1	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	580.0	褐色(炭石)	
34	L1	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	600.0	褐色(炭石)	蓋部は削り出し
35	L1	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	3000.0	褐色(炭石)	
36	L1	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	2900.0	褐色(炭石)	下部は、足り上は平らな面
37	L1	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	1840.0	褐色(炭石)	上部の中間部に同心状の溝あり 蓋部は削り出し、上下面は平らな面 戻りていない
38	L1	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	2520.0	褐色(炭石)	下部は削り出し、上部は平らな面 戻りていない、上下面は平らな面 戻りていない
39	L1	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	1960.0	褐色(炭石)	

No.	遺種	形態	部位	径 (mm)	高さ (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備考
40	L1	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	2540.0	褐色(炭石)	蓋部はよく削り出し、上部は平らな面(削り出し)、戻りていない
41	L1	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	4000.0	褐色(炭石)	上部は削り出し、中央の凹みは削り出し、下部は平らな面(削り出し)、戻りていない
42	L1	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	4600.0	褐色(炭石)	上部は削り出しの4輪の塔身、下部は削り出しの2輪の塔身(高さ25~30mm)あり(平ら)
43	L1	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	2700.0	褐色(炭石)	蓋部は削り出し
45	L3	五輪塔	塔身	幅	高さ	厚さ	876.0	褐色(炭石)	上部は削り出し、下部は平らな面(削り出し)、戻りていない
51	W-1	石印	字印	幅	高さ	厚さ	1230.0	砂岩	蓋部は削り出し、上部は平らな面(削り出し)、戻りていない
52	W-2	石印	字印	幅	高さ	厚さ	7076.5	褐色(炭石)	蓋部は削り出し、上部は平らな面(削り出し)、戻りていない
53	W-3	石印	字印	幅	高さ	厚さ	232.0	褐色(炭石)	蓋部は削り出し、上部は平らな面(削り出し)、戻りていない
58	W-3	石印	字印	幅	高さ	厚さ	4378.5	褐色(炭石)	石部は削り出し
59	W-3	石印	字印	幅	高さ	厚さ	1900.0	褐色(炭石)	
60	W-3	小型板石	板部	幅	高さ	厚さ	236.0	褐色(炭石)	14:
61	W-3	蓋状石印	蓋部	幅	高さ	厚さ	3126.5	褐色(炭石)	一部は削り出し
62	P282	板石	板部	幅	高さ	厚さ	643.0	褐色(炭石)	

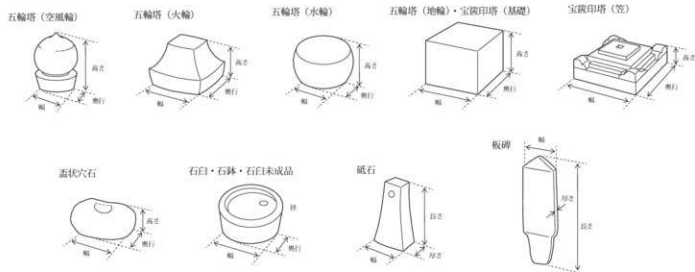


Fig.32 石製品計測部位と呼称凡例図

VI 人骨鑑定報告

元総社新海遺跡群（148）出土資料について
谷畑美帆（明治大学）

土壌は2つあり、それぞれ人骨が出土している。遺存状態は総じて不良であり、いずれも性別不明の成人個体である。

井戸の隈集中区および覆土中から人骨が出土しているが、いずれも性別不明の成人個体である。この他、未萌出の歯牙（2歳未満）が出土している。

注記	内容
1井戸、上1 中層シキ	長骨（下肢骨）片含む
1井戸、上1 中層シキ	右大腿骨ほか
1井戸、上1 覆土	下顎第一大臼歯（未萌出）ほか
	写真2
51ピット	左大腿骨
51ピット	下肢骨片（焼骨（カットマークあり）含む）
310ピット	下顎第一大臼歯・脛骨および腓骨片
	写真1



写真1 310ピット



写真2



1-1 人骨出土状況と調査状況

Ⅶ 発掘調査の成果と課題

今回報告した元総社新海遺跡群(148)は、中世のある段階に大規模な削土造成が行われた上に、掘立柱建物跡等の遺構が密集に形成されている。従って報告した遺構・遺物の主体は中世であるが、北に接する既往調査区で確認されていた古代の区画溝(143)W-3などの延長部分がかろうじて残存していた(今回調査区W-4)。

古代の区画溝

この区画溝は(143)の報告書において取りあげ、群馬県正倉初期の区画溝と推定したところである(永井ほか2023)。右にその区画溝の合成図最新版を示した(Fig.33)。今回の調査で確認されたW-4は伴うと判断される遺物の出土は無く、年代相違となるような遺構の重複関係も認められなかったで、(143)報告における推測を超えるものではない。あえて言うなら、中世の、おそらく新海城段階の削土造成によって古代の遺構が消滅する現実が示されたと考える。

中世の遺構群

今回の調査における主役とも言える中世の遺構群は、無数のピットから浮かび上がった掘立柱建物群と、方形竪穴状遺構や地下式坑、大小の土坑や井戸跡で、調査区内はまさにびっばりという、中世遺跡特有の景色となった。反面、遺構群に比してその時期を決める根拠である出土遺物は非常に少なく、具体的に中世遺構群の評価が不利にくいという現実もある。

上記を踏まえた上で、切り合い関係と位置関係を根拠とすると、中世遺構群は大きく2期で把握される。

I期の遺構としては、大井戸であるI-1、東部区画溝W-3、掘立柱建物跡B-2~6、方形竪穴状遺構のT-1・2、地下式坑T-4が相当する。これらのうちI-1とW-3は切り合い関係にあり、具体的にはI-1を埋め戻した後にW-3が削削されている。これによりI-1は1期古段階、W-3は1期新段階とする。また、大井戸であるI-1の位置関係から、掘立柱建物跡2~6は、北側に偏在するB-2~4を1期古段階、南のB-5・6を新段階とすることが可能と思われる。とはいえ掘立柱建物跡は古段階・新段階共に重複しており、比較的頻繁な建て替えを想定する必要がある。

II期の遺構としては、W-1・2とした地盤と、それに伴う掘立柱櫓の可能性のあるB-1、I期の区画溝であるW-3はW-1と接する部分に埋土による土橋を設置する変更がなされている。なお、大規模な堀であるW-1・2は、『新海城絵図』によると『諏訪屋敷』とされる曲輪を形成するものだが、北に隣接する(143)報告でa~c期の3時期変遷が確認されている。従ってII期についても古・新段階、あるいはそれ以上の小段階を設定できるのかもわからない。

上記2期の実年代については、明確な遺物も少ない為、明言し難いのが現実である。とはいえ少量の土器・陶磁器からI期が15世紀後半、II期が16世紀代と考えておきたい。

ここで示した変遷は、調査が進展する中で批判的に検証されて行かなければならない。今後の課題としたい。

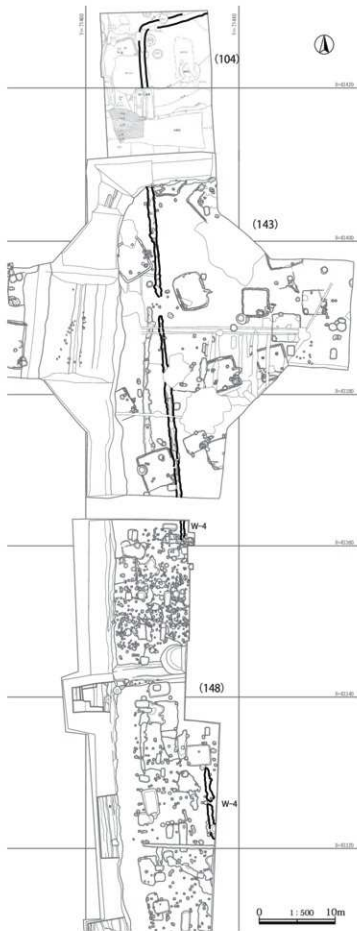


Fig.33 古代の区画溝合成図

参考文献

永井智哉ほか2023『元総社新海遺跡群(143)』前橋市教育委員会

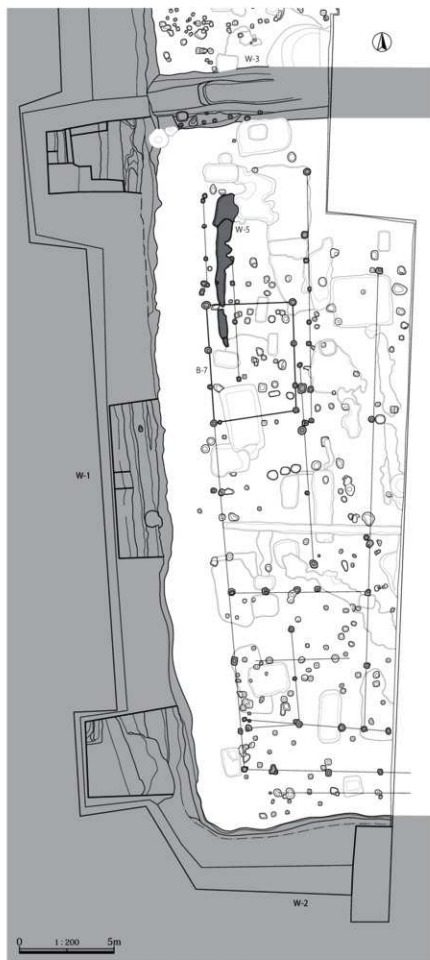


Fig.34 調査区南半の Pit 結線案 (補足)

左図は本報告で遺構としての評価を控えたピットの結線案である。

城郭の曲輪の、ましてや壁に臨む位置関係であることを思えば、防御にかかわるような塹の類が多数存在していても不思議は無い。

とは言え報告者には、これらのピット群を城郭研究の視点から読み解く用意もない為、ここに補足の図を提示して責を果たし、大方の絶対素材とするものである。

報告書抄録

ふりがな	もとうしゃおうみいせきぐん(148)							
書名	元総社普海遺跡群(148)							
副書名	前橋都市計画事業元総社普海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
編著者名	永井智教・谷畑美帆							
編集機関	山下工業株式会社 文化財事業部							
発行機関	前橋市教育委員会 文化財保護課							
発行年月日	2024年3月5日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査対象面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
元総社普海遺跡群(148)	群馬県前橋市元総社町1889-1ほか	10201	4A281	36°23'29"	139°02'00"	R5.1.30 / R5.3.17	1,000㎡	前橋都市計画事業元総社普海土地区画整理事業
	種類	主な遺構		主な遺物		特記事項		
	官衙	奈良時代	区画溝 1		—		北に接する(143)、さらにその北の(104)で確認されている区画溝と同一遺構。群馬県正倉初期の区画溝と推定。	
城館	中近世	掘立柱建物跡 7 堀穴状遺構 7 土坑 36 井戸跡 6 溝跡 5 ビット 507 その他		土器、陶磁器、鉄器、銭貨、石製品		15～16世紀代の遺構群。切り合い関係等からⅠ・Ⅱ期あり、普海城が城郭化するプロセスを示すものと考えられた。		

元総社蒼海遺跡群（148）

—前橋都市計画事業元総社蒼海土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2024年 3月 5日 印刷・発行

編集 山下工業株式会社
発行 前橋市教育委員会
印刷 朝日印刷工業株式会社
